

I 5類定点把握感染症
(性感染症を除く)

5 類定点把握感染症（性感染症を除く）

1、2017（平成 29）年の総括

2017（平成 29）年の大阪府感染症発生動向調査事業における 5 類定点把握感染症（性感染症を除く）の特徴について概説する（表）。全国では、定点あたりの年平均の週間報告数として、インフルエンザ、感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RS ウイルス感染症、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱の順であった。大阪府では、感染性胃腸炎、インフルエンザ、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、ヘルパンギーナの順であり、全国の発生動向や傾向と若干の相違が認められている。

大阪府の発生動向について、2016 年と比較すると、感染性胃腸炎の年平均の週間報告数が 7.15 から 5.16 へ、昨年より、27.8%の減少が見られた。また、インフルエンザの年平均の週間報告数が 6.06 から 4.92 へ、昨年より、18.8%の減少が見られた。一方、昨年、平均週間報告数が 0.26 であった手足口病が 2017 年は 2.15 へと、8.30 倍、激増していた。

表. 定点あたり年平均の週間報告数

全 国			大 阪 府		
順位	感染症	定点当たり報告数	順位	感染症	定点当たり報告数
1	インフルエンザ	6.27	1	感染性胃腸炎	5.16
2	感染性胃腸炎	5.31	2	インフルエンザ	4.92
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.24	3	手足口病	2.15
4	手足口病	2.19	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.08
5	RSウイルス感染症	0.85	5	咽頭結膜熱	0.50
6	流行性角結膜炎	0.74	6	流行性耳下腺炎	0.48
7	咽頭結膜熱	0.56	7	ヘルパンギーナ	0.82

(文責：本村)

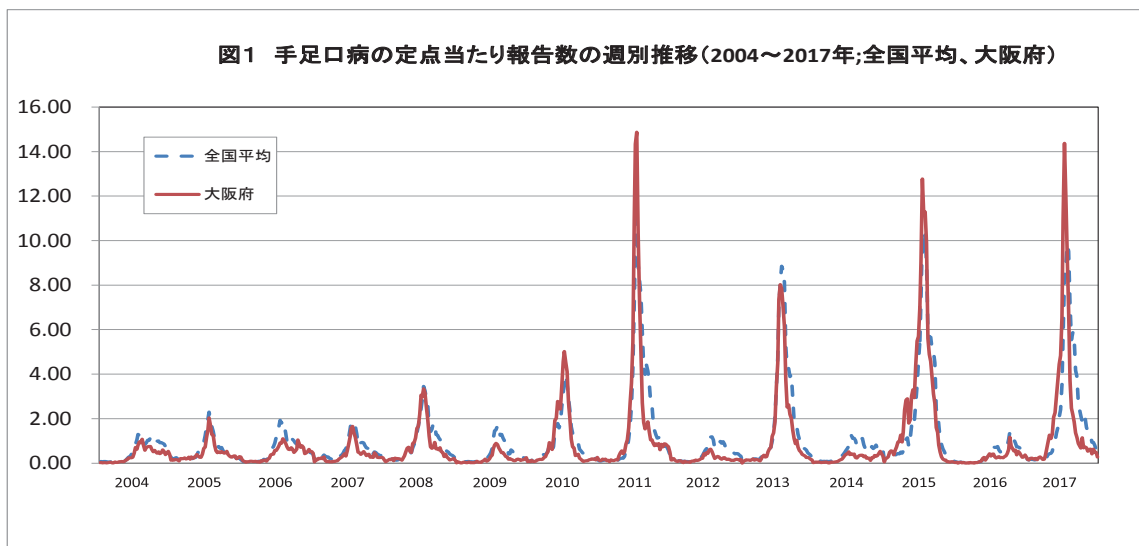
1) 2017 (平成29) 年に注目された感染症

[手足口病]

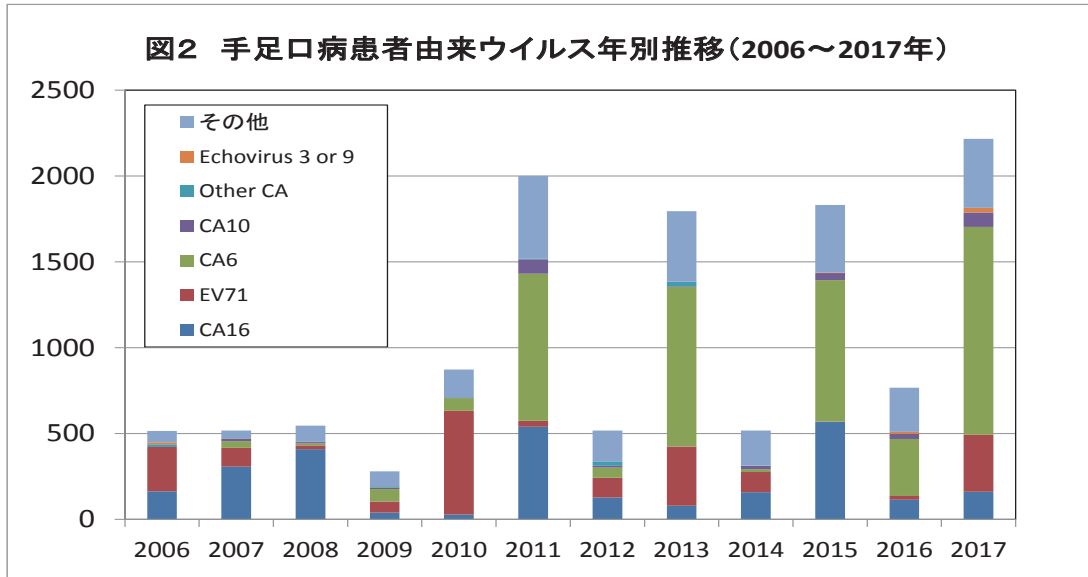
手足口病 (hand, foot, and mouth disease : HFMD) は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。病原ウイルスは主にコクサッキー A6 (CA6)、コクサッキー A16 (CA16)、エンテロウイルス 71 (EV71) であり、その他 CA9 や CA10 などのエンテロウイルスによっても発症する。例年4月頃から患者数が増加し始め、流行のピークは7月の中旬か下旬となり、8月に入ると減少していく、という経過を辿る。

臨床的特徴であるが、手足口病に特徴的な発疹は口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に出現する2～3 mmの水疱性発疹とされてきたが、CA6を原因ウイルスとする手足口病の場合の発疹は5mm前後と大きく、上腿、殿部、上腕部、頸部等広範囲にみられることも少なくない。また、これまでの手足口病とは異なり、39℃以上の高熱をきたすこともしばしば認められる。基本的には数日間の内に治癒する予後良好の疾患である。しかしながら、まれではあるが髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系の合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を呈することがある。

感染症発生動向調査による2004年から2017年までの週毎の手足口病の定点当たり報告数をみると、大阪府も全国平均値も、どちらもそのピーク値が2011年に急増してそれまで見られなかった規模の大きな流行となり、以降は2013年、2015年、2017年と隔年で規模の大きな流行がみられている (図1)。



また、手足口病患者由来ウイルスの全国の検出状況を見ると、2011年に初めてCA6が流行の中心ウイルスとなった時に大規模な流行となり、以降も大規模な流行年にはCA6が流行の中心となっている (図2)。



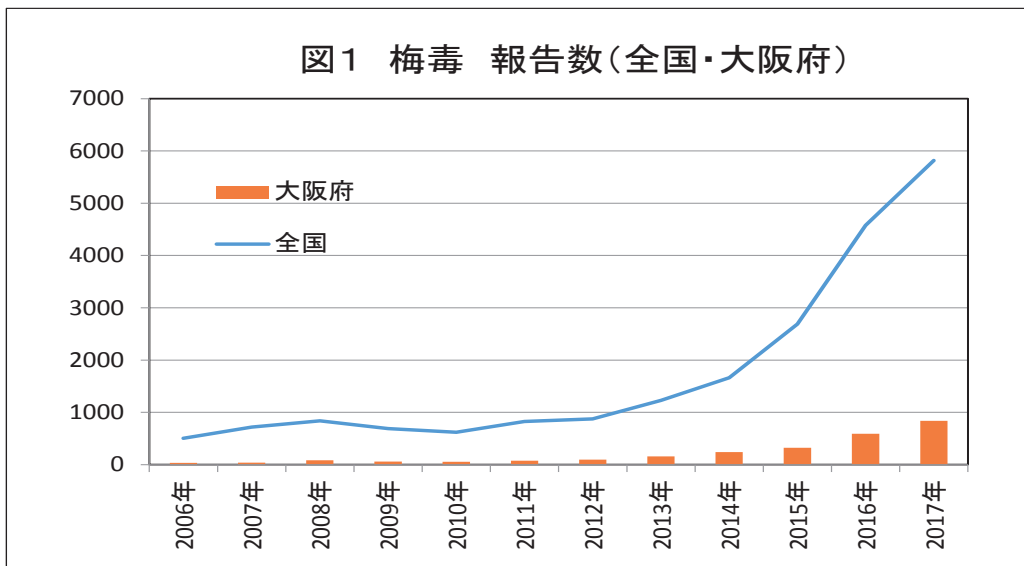
かつてCA6は手足には発疹はみられないヘルパンギーナの主因ウイルスであるとされてきたが、2011年以降は手足口病においてその流行規模を規定するウイルスとなりつつある。

2017（平成29）年の大阪府の手足口病の定点当たり報告数のピーク値は2011年に次いで高い値（14.37）であり、これは全国的にCA6を原因ウイルスとした手足口病が流行した影響を受けたものと考えられる。CA6による手足口病の流行が今後も隔年で発生するのであれば、2019年にまた手足口病の大きな流行が大阪にも見られると推測される。

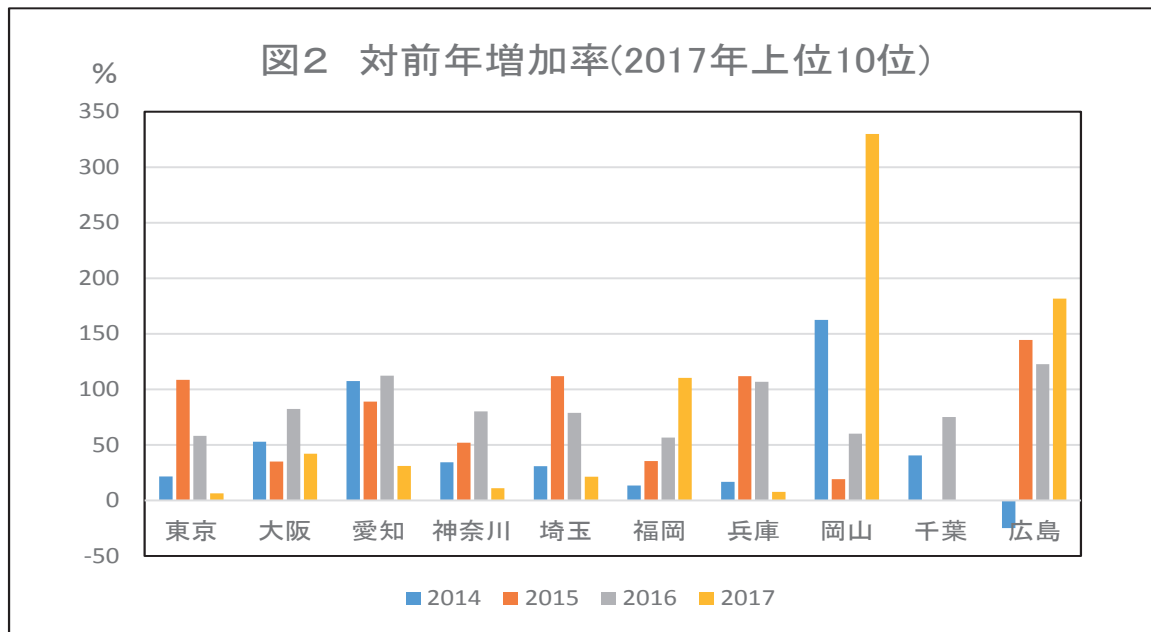
（文責：安井）

[梅毒]

2017年全国同様大阪府も引き続き増加（全国：5820例；男3925、女1895 / 対前年増加率+27.2%、大阪840例；男510、女330 / +42.1%）した（図1）。



大阪府以外の2017年都道府県別届出数上位10位の届出数/対前年増加率では東京:1770例/6.3%、愛知:339例/+30.9%、神奈川:322例/+11.0%、埼玉:234例/+21.2%、福岡:227例/+110.2%、兵庫:198例/+7.6%、岡山:172例/+330.0%、千葉:140例/+0.0%、広島:138例/+181.6%と、首都圏での鈍化と対照的に地方での急増が見られた(図2)。



大阪府の現況報告をする。対前年増加率は男+33.7%、女+61.8%と、前年同様女性優位であった。時期の分布では①1-3月期:総数/男/女=20.3/19.7/21.2% ②4-6月期:総数/男/女=22.9/22.4/23.6% ③7-9月期:総数/男/女=26.6/28.1/24.2% ④10-12月期:総数/男/女=30.2/29.8/31.0%と年初から年末へと男女とも漸次増加していた。

地域別分布状況は⑩大阪市東部:337例/40.2%、⑧大阪市北部:198例/23.6%と2地域で全体の63.8%を占め、他域での報告数は1地域あたり18-51例にとどまった。性別では前記2地域で男302例(59.4%)、女では⑩大阪市東部のみで177例(53.6%)と半数以上を占めた。

年齢別総数の分布状況は、6ヶ月未満:0.1%(1例)、6ヶ月以上-14歳:0%、15-19歳:3.5%、20-29歳:36.0%、30-39歳:22.9%、40-49歳:19.7%、50-59歳:8.1%、60-69歳:5.7%、70-79歳:2.6%、80歳以上:1.3%であった。女性では20歳台のみで59.1%(195例)を占め、男性は20歳台:21.1%、30歳台:25.2%、40歳台:27.8%と20-49歳で74.0%を占めた。新生児1例を含む未成年例が全体の3.6%を占め女性優位(男8例、女22例)であった。60歳以上は9.7%であった。

未治療患者との性的接触歴を有する症例、抗体陰性期あるいはTP抗体陰性/RPR抗体陽性の早期顕性梅毒症例、低抗体価の無症候性症例等に対しても積極的な対応を考慮すべきと考える。また当院での約1/3の症例が治療後抗体検査未施行であり治療が不十分な可能性もあり、海外で実施されているペニシリン製剤の筋注単回療法の本邦への導入が望まれる。

(文責 亀岡)

2) 感染症別・週別患者報告状況

「2017年(平成29)年の総括」で記した疾患について、定点当たり報告数の最高値が報告された週や最高値を示した(表1)。インフルエンザは、2016年と比較して2週遅く、1月第4週に最高値を示した。また、手足口病が2年ぶり大流行し、7月第2週に最高値を示した。一方、感染性胃腸炎は、過去5年で、最も少ない報告数を示し、興味深いことに、例年11-12月に最高値に達するが、2017年は6月第2週に最高値を示している。RSウイルス感染症は、7月第3週から流行開始し、例年に比べて流行開始時期が早かった。8月第4週に最高値を示し、昨年に比べ、2か月早かった。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、2015年とほぼ同時期に、最高値が報告された。

2017年と2016年における感染症発生動向の増減を比較すると、2017年は、RSウイルス感染症、手足口病、急性出血性結膜炎が増加傾向を示していた(表2)。RSウイルス感染症は2016年に比べ1.37倍に増え、手足口病は8.30倍、急性出血性結膜炎1.35倍であった。手足口病の増加が際立っていた。

表1. 定点あたり報告数の最高値が報告された週や最高値(2017年)

大 阪 府

	疾患	定点あたり報告数の最高値が報告された週	定点あたり報告数の最高値	警報レベル開始基準値
1	インフルエンザ	4週(1月第4週)	39.46	30
2	手足口病	28週(7月第2週)	14.38	5
3	感染性胃腸炎	24週(6月第2週)	8.48	20
4	RSウイルス感染症	35週(8月第4週)	3.91	未設定
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	24週(6月第2週)	3.72	8
6	流行性耳下腺炎	1週(1月第1週)	1.25	6
7	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	16週(4月第3週)	1.24	未設定

表2. 2017年と2016年における感染症発生動向比較

疾患	2017年	2016年
インフルエンザ ↓	78,654	96,701
RSウイルス感染症 ↑	11,675	8,542
咽頭結膜熱 ↓	5,210	5,231
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ↓	21,598	21,607
感染性胃腸炎 ↓	53,649	74,465
水痘 ↓	4,037	4,254
手足口病 ↑	22,324	2,689
伝染性紅斑 ↓	523	1,998
突発性発しん ↓	4,589	4,857
百日咳 ↓	108	166
ヘルパンギーナ ↓	4,967	8,563
流行性耳下腺炎 ↓	4,972	14,504
小児科定点疾患 合計	133,652	146,876
急性出血性結膜炎 ↑	42	31
流行性角結膜炎 ↓	1,108	1,454
眼科定点疾患 合計	1,150	1485
細菌性髄膜炎 ↓	18	29
無菌性髄膜炎 ↓	44	59
マイコプラズマ肺炎 ↓	295	1,097
クラミジア肺炎(オウム病を除く) ↓	3	4
感染性胃腸炎(ロタウイルス) ↓	237	405
基幹定点疾患 合計	597	1594

(文責：本村)

3) 感染症別・ブロック別患者報告状況

大阪府内を11ブロック(1. 豊能、2. 三島、3. 北河内、4. 中河内、5. 南河内、6. 堺市、7. 泉州、8. 大阪市北部、9. 大阪市西部、10. 大阪市東部、11. 大阪市南部)に分け、各ブロックの構成市町村、定点数、人口、出生数を解析評価した。感染症別に、1年間でより流行が認められた地域を定点当たりの年平均報告数を表に要約した。

年平均の定点当たり報告数から地域ブロックを評価した場合、上位8疾患のうち、南河内ブロックは3疾患(感染性胃腸炎、手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)で首位を占めていた(表)。2016年も、南河内ブロックは、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎で首位であった。一方、三島ブロックは2疾患(インフルエンザ、RSウイルス感染症)、大阪市東部は2疾患(手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)、大阪市南部は2疾患(流行性耳下腺炎、ヘルパンギーナ)で、最下位であった(表)。

インフルエンザ		感染性胃腸炎		手足口病		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	
豊能	3.96	豊能	4.36	豊能	1.70	豊能	2.29
三島	3.58	三島	4.52	三島	1.59	三島	2.10
北河内	5.49	北河内	6.32	北河内	2.63	北河内	1.88
中河内	4.64	中河内	7.63	中河内	2.63	中河内	2.36
南河内	7.08	南河内	8.59	南河内	3.25	南河内	3.02
堺市	4.66	堺市	2.41	堺市	1.45	堺市	1.52
泉州	4.86	泉州	6.56	泉州	1.95	泉州	2.30
大阪市北部	5.60	大阪市北部	5.03	大阪市北部	2.68	大阪市北部	1.80
大阪市西部	7.86	大阪市西部	3.91	大阪市西部	2.41	大阪市西部	2.08
大阪市東部	4.26	大阪市東部	2.83	大阪市東部	1.40	大阪市東部	1.39
大阪市南部	3.83	大阪市南部	3.26	大阪市南部	2.04	大阪市南部	2.04
府内平均	4.93	合計	5.16	合計	2.15	合計	2.08

RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		流行性耳下腺炎		ヘルパンギーナ	
豊能	0.74	豊能	0.29	豊能	0.27	豊能	0.36
三島	0.60	三島	0.38	三島	0.43	三島	0.52
北河内	1.34	北河内	0.69	北河内	0.81	北河内	0.68
中河内	1.13	中河内	0.71	中河内	0.69	中河内	0.43
南河内	1.78	南河内	0.64	南河内	0.71	南河内	0.35
堺市	0.81	堺市	0.30	堺市	0.23	堺市	0.34
泉州	1.16	泉州	0.41	泉州	0.59	泉州	0.52
大阪市北部	1.98	大阪市北部	0.43	大阪市北部	0.48	大阪市北部	0.94
大阪市西部	1.68	大阪市西部	0.35	大阪市西部	0.37	大阪市西部	0.66
大阪市東部	0.74	大阪市東部	0.50	大阪市東部	0.33	大阪市東部	0.27
大阪市南部	0.82	大阪市南部	0.70	大阪市南部	0.17	大阪市南部	0.26
合計	1.12	合計	0.50	合計	0.48	合計	0.48

(文責：本村)

4) 感染症別・年齢別患者報告状況

インフルエンザ定点、基幹定点を除いた小児科定点における年齢報告数で最も多かった年齢は1歳台、次いで5歳台、1歳未満の順であった。1歳台の報告数の多い疾患は、2017（平成29）年は、2016年と比べ、手足口病の報告数が多かったため、感染性胃腸炎、手足口病、RSウイルス感染症、突発性発しん、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。5歳台の報告数の多い疾患は、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、流行性耳下腺炎であった。1歳未満の報告数の多い疾患は、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、手足口病、突発性発しん、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎であった。

インフルエンザは、小児科定点に加え、内科定点医療機関からも報告されるため、20歳以上の報告数が最多で、次が10歳から14歳台であった。小学校、中学校、職場など、集団生活を送る世代に多い疾患である。眼科定点疾患の流行性角結膜炎は20歳以上の報告数が最多であった。基幹定点疾患のマイコプラズマ肺炎は、10歳から14歳台が好発年齢であり、感染性胃腸炎（ロタウイルス）は、1歳台が最多であった。インフルエンザを除くと、最多の感染症別・年齢別患者報告数は、感染性胃腸炎であった。

表. 定点あたり報告数の最高値が報告された年齢区分(太字は最高ブロックと報告数)

大阪府	
疾患名	最高値が報告された年齢区分
インフルエンザ	20歳以上
RSウイルス感染症	1歳未満
咽頭結膜熱	1歳台
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5歳台
感染性胃腸炎	1歳台
水痘	5歳台
手足口病	1歳台
伝染性紅斑	5歳台
突発性発しん	1歳台
百日咳	1歳未満
ヘルパンギーナ	1歳台
流行性耳下腺炎	5歳台
急性出血性結膜炎	20歳以上
流行性角結膜炎	20歳以上
マイコプラズマ肺炎	10-14歳台
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1歳台

(文責：本村)

2017(平成29年)感染症発生動向調査 カレンダー

調査期間は月曜日から日曜日までの1週間を単位としています。

	週	調査期間		週	調査期間		週	調査期間
1月	1週	1/2 ~ 1/8	5月	18週	4/30 ~ 5/6	9月	36週	9/3 ~ 9/9
	2週	1/9 ~ 1/15		19週	5/7 ~ 5/13		37週	9/10 ~ 9/16
	3週	1/16 ~ 1/22		20週	5/14 ~ 5/20		38週	9/17 ~ 9/23
	4週	1/23 ~ 1/29		21週	5/21 ~ 5/27		39週	9/24 ~ 9/30
	5週	1/30 ~ 2/5		22週	5/28 ~ 6/3	10月	40週	10/1 ~ 10/7
2月	6週	2/6 ~ 2/12	6月	23週	6/4 ~ 6/10		41週	10/8 ~ 10/14
	7週	2/13 ~ 2/19		24週	6/11 ~ 6/17		42週	10/15 ~ 10/21
	8週	2/20 ~ 2/26		25週	6/18 ~ 6/24		43週	10/22 ~ 10/28
	9週	2/27 ~ 3/4		26週	6/25 ~ 7/1		44週	10/29 ~ 11/4
3月	10週	3/5 ~ 3/11	7月	27週	7/2 ~ 7/8	11月	45週	11/5 ~ 11/11
	11週	3/12 ~ 3/18		28週	7/9 ~ 7/15		46週	11/12 ~ 11/18
	12週	3/19 ~ 3/25		29週	7/16 ~ 7/22		47週	11/19 ~ 11/25
	13週	3/26 ~ 4/1		30週	7/23 ~ 7/29		48週	11/26 ~ 12/2
4月	14週	4/2 ~ 4/8		8月	31週	7/30 ~ 8/5	12月	49週
	15週	4/9 ~ 4/15	32週		8/6 ~ 8/12	50週		12/10 ~ 12/16
	16週	4/16 ~ 4/22	33週		8/13 ~ 8/19	51週		12/17 ~ 12/23
	17週	4/23 ~ 4/29	34週		8/20 ~ 8/26	52週		12/24 ~ 12/30
					35週	8/27 ~ 9/2		

2017(平成29)年 年平均の定点あたり報告数上位5疾患(大阪府内)

	1位	報告数	2位	報告数	3位	報告数	4位	報告数	5位	報告数	TOPICS
1週	感染性胃腸炎	749	流行性耳下腺炎	244	A群溶連菌咽頭炎	159	RSウイルス感染症	150	水痘	110	インフルエンザ 増加
2	感染性胃腸炎	974	流行性耳下腺炎	246	A群溶連菌咽頭炎	236	RSウイルス感染症	126	突発性発しん	91	インフルエンザ 注意報レベル超える
3	感染性胃腸炎	1008	A群溶連菌咽頭炎	333	流行性耳下腺炎	194	RSウイルス感染症	128	突発性発しん	84	インフルエンザ 流行拡大
4	感染性胃腸炎	949	A群溶連菌咽頭炎	315	流行性耳下腺炎	162	RSウイルス感染症	138	水痘	71	インフルエンザ 警報レベル超える
5	感染性胃腸炎	879	A群溶連菌咽頭炎	252	流行性耳下腺炎	162	RSウイルス感染症	114	咽頭結膜熱	72	インフルエンザ 警報レベル続く
6	感染性胃腸炎	815	A群溶連菌咽頭炎	295	流行性耳下腺炎	149	咽頭結膜熱	71	水痘	67	インフルエンザ ピーク越える
7	感染性胃腸炎	787	A群溶連菌咽頭炎	377	流行性耳下腺炎	148	RSウイルス感染症	102	突発性発しん	87	インフルエンザ 減少
8	感染性胃腸炎	839	A群溶連菌咽頭炎	458	流行性耳下腺炎	151	突発性発しん	78	咽頭結膜熱	77	インフルエンザ 減少続く
9	感染性胃腸炎	933	A群溶連菌咽頭炎	396	流行性耳下腺炎	176	咽頭結膜熱	97	突発性発しん	78	インフルエンザ さらに減少
10	感染性胃腸炎	1075	A群溶連菌咽頭炎	435	流行性耳下腺炎	179	咽頭結膜熱	97	RSウイルス感染症	93	インフルエンザ 終息へ
11	感染性胃腸炎	1006	A群溶連菌咽頭炎	462	流行性耳下腺炎	172	咽頭結膜熱	100	RSウイルス感染症	89	インフルエンザ さらに減少
12	感染性胃腸炎	993	A群溶連菌咽頭炎	355	流行性耳下腺炎	143	咽頭結膜熱	82	RSウイルス感染症	79	インフルエンザ 減少続く
13	感染性胃腸炎	1068	A群溶連菌咽頭炎	331	流行性耳下腺炎	127	咽頭結膜熱	88	突発性発しん	78	感染性胃腸炎 増加
14	感染性胃腸炎	1014	A群溶連菌咽頭炎	350	流行性耳下腺炎	130	突発性発しん	95	水痘	76	インフルエンザ 終息へ向かう
15	感染性胃腸炎	1277	A群溶連菌咽頭炎	383	手足口病	128	流行性耳下腺炎	124	突発性発しん	99	手足口病 増加傾向
16	感染性胃腸炎	1387	A群溶連菌咽頭炎	486	手足口病	192	突発性発しん	115	流行性耳下腺炎	110	手足口病 増加続く
17	感染性胃腸炎	1519	A群溶連菌咽頭炎	509	手足口病	252	咽頭結膜熱	109	突発性発しん	105	手足口病 流行の兆し
18	感染性胃腸炎	1274	A群溶連菌咽頭炎	421	手足口病	219	咽頭結膜熱	105	流行性耳下腺炎	98	
19	感染性胃腸炎	1557	A群溶連菌咽頭炎	559	手足口病	260	咽頭結膜熱	157	流行性耳下腺炎	121	インフルエンザ 非流行期へ
20	感染性胃腸炎	1572	A群溶連菌咽頭炎	627	手足口病	414	咽頭結膜熱	159	突発性発しん	116	手足口病 増加
21	感染性胃腸炎	1628	A群溶連菌咽頭炎	722	手足口病	454	咽頭結膜熱	223	突発性発しん	122	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加
22	感染性胃腸炎	1509	A群溶連菌咽頭炎	679	手足口病	600	咽頭結膜熱	186	突発性発しん	111	「手足口病 増加続く」
23	感染性胃腸炎	1501	手足口病	741	A群溶連菌咽頭炎	703	咽頭結膜熱	189	ヘルパンギーナ	140	「手足口病 さらに増加」
24	感染性胃腸炎	1695	手足口病	888	A群溶連菌咽頭炎	743	咽頭結膜熱	203	ヘルパンギーナ	172	「夏型感染症 増加」
25	感染性胃腸炎	1652	手足口病	962	A群溶連菌咽頭炎	707	ヘルパンギーナ	185	咽頭結膜熱	170	「手足口病 さらに増加」
26	感染性胃腸炎	1354	手足口病	1309	A群溶連菌咽頭炎	610	ヘルパンギーナ	226	咽頭結膜熱	151	「手足口病 警報レベル超える」
27	手足口病	2190	感染性胃腸炎	1142	A群溶連菌咽頭炎	586	ヘルパンギーナ	308	咽頭結膜熱	145	「手足口病 大幅な増加続く」
28	手足口病	2874	感染性胃腸炎	1064	ヘルパンギーナ	480	A群溶連菌咽頭炎	478	RSウイルス感染症	141	「手足口病 流行拡大」
29	手足口病	2378	感染性胃腸炎	778	ヘルパンギーナ	386	A群溶連菌咽頭炎	370	RSウイルス感染症	190	「夏型感染症 ピーク越えか」
30	手足口病	1858	感染性胃腸炎	884	ヘルパンギーナ	421	A群溶連菌咽頭炎	344	RSウイルス感染症	282	「RSウイルス感染症 増加」
31	手足口病	1366	感染性胃腸炎	747	RSウイルス感染症	400	ヘルパンギーナ	386	A群溶連菌咽頭炎	275	「RSウイルス感染症 さらに増加」
32	手足口病	732	感染性胃腸炎	527	RSウイルス感染症	347	ヘルパンギーナ	240	A群溶連菌咽頭炎	183	
33	感染性胃腸炎	540	RSウイルス感染症	495	手足口病	493	A群溶連菌咽頭炎	189	ヘルパンギーナ	164	「RSウイルス感染症 増加」
34	感染性胃腸炎	655	RSウイルス感染症	534	手足口病	438	A群溶連菌咽頭炎	251	ヘルパンギーナ	183	「RSウイルス感染症 増加つづく」
35	RSウイルス感染症	782	感染性胃腸炎	745	手足口病	369	A群溶連菌咽頭炎	249	ヘルパンギーナ	182	「RSウイルス感染症 第1位に」
36	RSウイルス感染症	728	感染性胃腸炎	629	A群溶連菌咽頭炎	321	手足口病	272	ヘルパンギーナ	123	「RSウイルス感染症 流行続く」
37	RSウイルス感染症	746	感染性胃腸炎	683	A群溶連菌咽頭炎	308	手足口病	232	ヘルパンギーナ	106	「RSウイルス感染症 今後も注意を」
38	感染性胃腸炎	529	RSウイルス感染症	521	A群溶連菌咽頭炎	269	手足口病	176	ヘルパンギーナ	90	「RSウイルス感染症 減少」
39	感染性胃腸炎	603	RSウイルス感染症	474	A群溶連菌咽頭炎	363	手足口病	151	突発性発しん	79	「A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 増加」
40	感染性胃腸炎	606	RSウイルス感染症	453	A群溶連菌咽頭炎	328	手足口病	135	突発性発しん	92	「RSウイルス感染症 減少するも依然流行」
41	感染性胃腸炎	576	RSウイルス感染症	353	A群溶連菌咽頭炎	317	手足口病	228	突発性発しん	96	「RSウイルス感染症 4週連続で減少」
42	感染性胃腸炎	609	A群溶連菌咽頭炎	314	RSウイルス感染症	266	手足口病	137	突発性発しん	92	「RSウイルス感染症、減少続く」
43	感染性胃腸炎	695	A群溶連菌咽頭炎	321	RSウイルス感染症	306	手足口病	146	突発性発しん	85	「感染性胃腸炎 増加」
44	感染性胃腸炎	664	A群溶連菌咽頭炎	352	RSウイルス感染症	254	手足口病	140	突発性発しん	96	「感染性胃腸炎 やや減少」
45	感染性胃腸炎	852	A群溶連菌咽頭炎	451	RSウイルス感染症	268	手足口病	107	水痘	105	「感染性胃腸炎 増加」
46	感染性胃腸炎	885	A群溶連菌咽頭炎	431	RSウイルス感染症	217	手足口病	123	咽頭結膜熱	98	「感染性胃腸炎 微増」
47	感染性胃腸炎	914	A群溶連菌咽頭炎	407	RSウイルス感染症	249	手足口病	125	咽頭結膜熱	89	「インフルエンザ 流行迫る」
48	感染性胃腸炎	1295	A群溶連菌咽頭炎	504	RSウイルス感染症	281	水痘	126	咽頭結膜熱	100	「インフルエンザ 流行期に入る」
49	感染性胃腸炎	1428	A群溶連菌咽頭炎	539	RSウイルス感染症	326	手足口病	126	水痘	108	「インフルエンザ 増加」
50	感染性胃腸炎	1469	A群溶連菌咽頭炎	586	RSウイルス感染症	311	水痘	153	咽頭結膜熱	107	「インフルエンザ さらに増加」
51	感染性胃腸炎	1514	A群溶連菌咽頭炎	504	RSウイルス感染症	292	水痘	109	手足口病	97	「インフルエンザ 注意報レベルに迫る」
52	感染性胃腸炎	1063	A群溶連菌咽頭炎	301	RSウイルス感染症	205	水痘	85	手足口病	54	「インフルエンザ 注意報レベルを超える 今後の動向に注意」

注1:疾患名は小児科定点の対象疾患です。 注2:週遅れデータは含まれていません。

注3:A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はA群溶連菌咽頭炎と表示しています。

2017（平成29）年 感染症別・週別報告状況（全国集計）

	1月					2月					3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週	
インフルエンザ	52,250	75,683	142,312	195,833	189,406	142,003	118,875	83,890	67,365	55,085	51,158	38,318	33,672	
RSウイルス感染症	1,414	1,183	1,219	1,123	1,051	788	830	676	698	744	696	577	650	
咽頭結膜熱	984	906	951	976	1,148	967	1,138	1,156	1,257	1,252	1,155	1,060	984	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3,342	4,596	6,285	6,857	7,340	6,861	7,922	7,782	7,683	8,250	8,265	6,605	6,283	
感染性胃腸炎	16,765	20,557	22,156	20,156	18,382	15,880	17,159	16,817	17,158	17,699	18,409	15,903	17,094	
水痘	1,798	1,368	1,101	1,087	901	879	1,046	1,034	1,037	1,119	1,174	1,134	1,124	
手足口病	515	448	682	542	509	432	459	397	333	404	361	337	395	
伝染性紅斑	280	297	353	292	265	188	246	224	237	257	229	187	225	
突発性発しん	828	1,211	1,300	1,156	1,158	1,041	1,233	1,247	1,190	1,253	1,372	1,163	1,266	
百日咳	15	22	31	26	30	18	16	21	16	35	27	13	21	
ヘルパンギーナ	81	103	87	99	67	52	76	56	59	58	71	48	79	
流行性耳下腺炎	2,629	2,694	1,873	1,878	2,074	1,681	2,037	1,979	1,927	2,051	1,951	1,805	1,823	
急性出血性結膜炎	5	11	9	5	3	6	11	6	3	14	8	6	2	
流行性角結膜炎	398	415	378	338	345	285	306	305	321	308	324	314	367	
細菌性髄膜炎	7	9	8	6	16	9	8	6	10	8	11	14	10	
無菌性髄膜炎	16	13	17	16	11	14	15	17	14	13	16	16	15	
マイコプラズマ肺炎	322	344	299	254	240	202	184	185	166	169	140	117	130	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	3	10	7	10	9	7	5	4	3	5	6	2	2	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	23	27	34	46	39	52	87	120	151	187	281	284	296	

	7月					8月					9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週	
インフルエンザ	914	999	941	919	998	809	671	609	828	906	1,089	901	1,026	
RSウイルス感染症	1,182	1,796	2,241	3,331	4,962	5,288	5,417	6,640	10,214	10,154	10,548	7,892	7,233	
咽頭結膜熱	2,927	2,619	2,236	2,455	2,248	1,709	1,513	1,395	1,528	1,607	1,463	1,206	1,309	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8,486	7,479	5,541	5,460	4,755	3,429	2,849	3,564	3,849	4,597	4,863	3,791	4,856	
感染性胃腸炎	16,639	15,349	11,996	12,496	11,904	9,392	8,348	10,318	10,692	10,499	10,425	8,217	9,765	
水痘	1,252	1,117	905	908	847	749	698	650	635	620	624	621	745	
手足口病	18,200	26,048	28,340	31,151	30,130	23,099	17,096	18,443	17,650	13,198	12,264	8,440	7,469	
伝染性紅斑	373	325	253	237	219	140	153	198	222	193	203	116	175	
突発性発しん	1,811	1,757	1,549	1,648	1,538	1,227	1,139	1,416	1,460	1,535	1,415	1,192	1,375	
百日咳	38	47	36	47	45	41	33	35	25	34	31	22	33	
ヘルパンギーナ	4,788	7,091	7,099	8,355	7,687	5,557	3,658	4,831	4,460	3,352	3,056	1,761	1,832	
流行性耳下腺炎	1,654	1,632	1,387	1,623	1,491	1,267	1,194	1,217	1,149	1,169	1,228	979	1,235	
急性出血性結膜炎	15	9	14	10	7	5	6	16	5	9	5	4	3	
流行性角結膜炎	574	620	567	661	696	568	591	755	693	689	695	598	736	
細菌性髄膜炎	9	9	10	9	16	11	15	8	13	9	9	16	9	
無菌性髄膜炎	24	18	13	29	33	23	31	28	26	37	26	18	25	
マイコプラズマ肺炎	122	127	123	122	122	119	138	125	157	132	156	146	174	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	4	1	4	2	5	4	6	6	5	7	5	8	2	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	32	18	9	10	8	3	7	2	4	9	5	2	3	

I 定点把握感染症(性感染症を除く)

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
25,117	19,763	20,146	15,515	10,090	6,799	5,196	3,353	2,101	1,546	1,266	1,156	1,014
619	817	950	879	600	639	738	699	729	794	864	786	860
972	1,006	1,327	1,510	1,368	2,081	2,054	2,872	3,004	3,082	3,067	3,086	2,935
6,057	6,976	8,378	8,492	6,368	9,325	10,043	10,353	10,563	10,908	11,345	10,908	9,595
17,888	19,075	21,047	20,853	16,302	22,921	23,133	22,901	21,394	20,817	22,401	21,142	19,157
1,101	983	965	1,151	952	1,780	1,119	1,626	1,466	1,312	1,316	1,320	1,405
399	807	1,238	1,370	1,402	1,644	2,711	3,079	4,257	5,031	6,537	7,628	11,222
244	236	249	214	194	250	240	330	313	258	307	325	351
1,475	1,473	1,803	1,651	1,297	1,851	1,809	1,847	1,798	1,728	1,697	1,740	1,796
22	27	39	25	15	35	41	28	27	37	46	45	47
102	130	190	216	217	308	599	742	1,121	1,364	1,771	2,103	2,966
1,802	1,831	1,558	1,668	1,378	1,856	1,905	1,473	1,780	1,594	1,556	1,788	1,689
12	10	11	10	7	14	16	11	11	8	13	6	9
379	368	403	388	399	630	571	608	595	606	583	532	551
9	7	16	18	4	16	14	7	10	6	5	10	8
14	17	16	16	13	18	18	19	21	20	14	22	21
94	92	113	121	103	123	108	120	125	99	93	118	105
5	8	6	6	2	2	3	3	6	5	6	9	6
367	376	405	398	303	326	235	200	145	104	124	91	53

10月				11月				12月				合計	
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週		52週
1,054	868	1,208	1,781	2,416	2,593	3,803	7,302	12,810	20,175	36,715	64,032	89,720	1,614,999
6,200	4,620	4,020	4,093	3,047	2,796	2,403	2,248	2,318	2,466	2,275	2,324	2,226	139,557
1,389	1,234	1,391	1,688	1,624	1,987	2,128	2,190	2,603	2,588	2,693	2,248	1,993	92,269
5,298	4,549	5,706	6,219	5,945	6,923	7,905	7,742	9,127	9,721	10,113	9,456	7,720	367,325
10,012	9,041	10,657	11,485	10,980	13,528	15,484	17,369	22,046	24,735	27,411	26,630	23,338	871,922
729	758	1,050	924	1,470	1,402	1,775	1,479	1,945	1,612	2,105	1,658	1,586	60,162
6,720	5,893	5,656	6,534	5,135	4,450	4,051	3,886	2,978	2,985	2,547	1,950	1,354	358,806
140	189	149	219	173	225	203	250	274	268	276	251	221	12,436
1,322	1,293	1,293	1,375	1,266	1,375	1,357	1,320	1,365	1,346	1,350	1,154	1,042	73,303
33	25	39	48	50	42	36	33	35	35	32	30	31	1,661
1,553	1,132	1,298	1,258	974	767	718	570	449	362	295	245	132	86,045
1,057	946	1,081	982	899	1,190	968	853	982	932	878	899	712	77,884
6	4	10	6	8	6	13	5	10	6	12	11	9	441
588	555	570	517	484	590	585	493	590	594	594	582	534	26,736
11	9	13	7	9	19	7	13	10	11	6	4	9	523
17	15	17	17	11	25	22	15	10	9	14	19	12	956
162	169	178	154	188	250	263	168	191	181	175	180	172	8,360
7	2	7	7	5	4	5	3	7	3	4	7	5	265
3	1	4	5	4	5	4	10	5	13	17	10	27	4,974

2017（平成29）年 感染症別・週別定点あたり報告状況（全国集計）

	1月					2月				3月			
	1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
インフルエンザ	10.59	15.26	28.67	39.46	38.16	28.62	23.95	16.89	13.57	11.10	10.34	7.73	6.79
RSウイルス感染症	0.45	0.37	0.39	0.36	0.33	0.25	0.26	0.21	0.22	0.23	0.22	0.18	0.21
咽頭結膜熱	0.31	0.29	0.30	0.31	0.36	0.31	0.36	0.36	0.40	0.40	0.37	0.33	0.31
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	1.06	1.45	1.99	2.17	2.32	2.17	2.50	2.46	2.42	2.61	2.62	2.09	1.98
感染性胃腸炎	5.33	6.49	7.00	6.37	5.81	5.02	5.42	5.31	5.41	5.59	5.83	5.02	5.40
水痘	0.57	0.43	0.35	0.34	0.28	0.28	0.33	0.33	0.33	0.35	0.37	0.36	0.35
手足口病	0.16	0.14	0.22	0.17	0.16	0.14	0.15	0.13	0.11	0.13	0.11	0.11	0.12
伝染性紅斑	0.09	0.09	0.11	0.09	0.08	0.06	0.08	0.07	0.07	0.08	0.07	0.06	0.07
突発性発しん	0.26	0.38	0.41	0.37	0.37	0.33	0.39	0.39	0.38	0.40	0.43	0.37	0.40
百日咳	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01
ヘルパンギーナ	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
流行性耳下腺炎	0.84	0.85	0.59	0.59	0.66	0.53	0.64	0.62	0.61	0.65	0.62	0.57	0.58
急性出血性結膜炎	0.01	0.02	0.01	0.01	0.00	0.01	0.02	0.01	0.00	0.02	0.01	0.01	0.00
流行性角結膜炎	0.58	0.60	0.54	0.49	0.50	0.41	0.44	0.44	0.46	0.44	0.47	0.45	0.53
細菌性髄膜炎	0.01	0.02	0.02	0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02
無菌性髄膜炎	0.03	0.03	0.04	0.03	0.02	0.03	0.03	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
マイコプラズマ肺炎	0.68	0.72	0.63	0.53	0.50	0.42	0.38	0.39	0.35	0.36	0.29	0.25	0.27
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.01	0.02	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.05	0.06	0.07	0.10	0.08	0.11	0.18	0.25	0.32	0.39	0.59	0.60	0.62

	7月					8月				9月			
	27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
インフルエンザ	0.18	0.20	0.19	0.19	0.20	0.17	0.14	0.12	0.17	0.18	0.22	0.18	0.21
RSウイルス感染症	0.37	0.57	0.71	1.05	1.57	1.71	1.76	2.12	3.23	3.21	3.34	2.50	2.29
咽頭結膜熱	0.93	0.83	0.71	0.78	0.71	0.55	0.49	0.45	0.48	0.51	0.46	0.38	0.41
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	2.68	2.37	1.75	1.73	1.51	1.11	0.93	1.14	1.22	1.45	1.54	1.20	1.54
感染性胃腸炎	5.26	4.87	3.79	3.95	3.77	3.03	2.71	3.29	3.39	3.32	3.31	2.60	3.09
水痘	0.40	0.35	0.29	0.29	0.27	0.24	0.23	0.21	0.20	0.20	0.20	0.20	0.24
手足口病	5.76	8.26	8.96	9.85	9.54	7.45	5.56	5.89	5.59	4.18	3.89	2.67	2.36
伝染性紅斑	0.12	0.10	0.08	0.07	0.07	0.05	0.05	0.06	0.07	0.06	0.06	0.04	0.06
突発性発しん	0.57	0.56	0.49	0.52	0.49	0.40	0.37	0.45	0.46	0.49	0.45	0.38	0.43
百日咳	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
ヘルパンギーナ	1.51	2.25	2.25	2.64	2.43	1.79	1.19	1.54	1.41	1.06	0.97	0.56	0.58
流行性耳下腺炎	0.52	0.52	0.44	0.51	0.47	0.41	0.39	0.39	0.36	0.37	0.39	0.31	0.39
急性出血性結膜炎	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00
流行性角結膜炎	0.82	0.89	0.82	0.95	1.00	0.84	0.86	1.08	0.99	0.99	1.00	0.86	1.05
細菌性髄膜炎	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.03	0.02	0.03	0.02	0.02	0.03	0.02
無菌性髄膜炎	0.05	0.04	0.03	0.06	0.07	0.05	0.06	0.06	0.05	0.08	0.05	0.04	0.05
マイコプラズマ肺炎	0.26	0.27	0.26	0.26	0.26	0.25	0.29	0.26	0.33	0.28	0.33	0.31	0.36
クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0.01	0.00	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.07	0.04	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.00	0.01	0.02	0.01	0.00	0.01

I 定点把握感染症(性感染症を除く)

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
5.07	3.99	4.06	3.13	2.04	1.37	1.05	0.68	0.42	0.31	0.26	0.23	0.20
0.20	0.26	0.30	0.28	0.19	0.20	0.23	0.22	0.23	0.25	0.27	0.25	0.27
0.31	0.32	0.42	0.48	0.43	0.66	0.65	0.91	0.95	0.97	0.97	0.98	0.93
1.91	2.21	2.65	2.69	2.02	2.94	3.17	3.27	3.34	3.45	3.59	3.45	3.04
5.65	6.03	6.65	6.60	5.17	7.23	7.31	7.23	6.76	6.58	7.09	6.69	6.06
0.35	0.31	0.30	0.36	0.30	0.56	0.35	0.51	0.46	0.41	0.42	0.42	0.44
0.13	0.26	0.39	0.43	0.44	0.52	0.86	0.97	1.34	1.59	2.07	2.41	3.55
0.08	0.07	0.08	0.07	0.06	0.08	0.08	0.10	0.10	0.08	0.10	0.10	0.11
0.47	0.47	0.57	0.52	0.41	0.58	0.57	0.58	0.57	0.55	0.54	0.55	0.57
0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.03	0.04	0.06	0.07	0.07	0.10	0.19	0.23	0.35	0.43	0.56	0.67	0.94
0.57	0.58	0.49	0.53	0.44	0.59	0.60	0.47	0.56	0.50	0.49	0.57	0.53
0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01
0.55	0.53	0.58	0.56	0.58	0.90	0.82	0.87	0.85	0.87	0.84	0.76	0.79
0.02	0.01	0.03	0.04	0.01	0.03	0.03	0.01	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02
0.03	0.04	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.05	0.04
0.20	0.19	0.24	0.25	0.22	0.26	0.23	0.25	0.26	0.21	0.19	0.25	0.22
0.01	0.02	0.01	0.01	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01
0.77	0.79	0.85	0.83	0.64	0.68	0.49	0.42	0.30	0.22	0.26	0.19	0.11

10月				11月				12月				平均	
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週		52週
0.21	0.18	0.24	0.36	0.49	0.52	0.77	1.47	2.58	4.07	7.41	12.91	18.29	6.27
1.96	1.46	1.27	1.29	0.96	0.88	0.76	0.71	0.73	0.78	0.72	0.73	0.71	0.85
0.44	0.39	0.44	0.53	0.51	0.63	0.67	0.69	0.82	0.82	0.85	0.71	0.64	0.56
1.68	1.44	1.81	1.97	1.88	2.19	2.50	2.45	2.88	3.07	3.20	2.98	2.47	2.24
3.17	2.86	3.37	3.63	3.48	4.28	4.90	5.49	6.96	7.82	8.66	8.40	7.47	5.31
0.23	0.24	0.33	0.29	0.47	0.44	0.56	0.47	0.61	0.51	0.67	0.52	0.51	0.37
2.13	1.86	1.79	2.07	1.63	1.41	1.28	1.23	0.94	0.94	0.80	0.62	0.43	2.19
0.04	0.06	0.05	0.07	0.05	0.07	0.06	0.08	0.09	0.08	0.09	0.08	0.07	0.08
0.42	0.41	0.41	0.43	0.40	0.43	0.43	0.42	0.43	0.43	0.43	0.36	0.33	0.45
0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.49	0.36	0.41	0.40	0.31	0.24	0.23	0.18	0.14	0.11	0.09	0.08	0.04	0.53
0.33	0.30	0.34	0.31	0.28	0.38	0.31	0.27	0.31	0.29	0.28	0.28	0.23	0.47
0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01
0.85	0.80	0.82	0.74	0.69	0.85	0.84	0.71	0.85	0.85	0.85	0.83	0.78	0.74
0.02	0.02	0.03	0.01	0.02	0.04	0.01	0.03	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02
0.04	0.03	0.04	0.04	0.02	0.05	0.05	0.03	0.02	0.02	0.03	0.04	0.03	0.04
0.34	0.35	0.37	0.32	0.39	0.52	0.55	0.35	0.40	0.38	0.37	0.38	0.36	0.34
0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
0.01	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.03	0.04	0.02	0.06	0.20

2017（平成29）年 感染症別・週別報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	インフルエンザ	307	307	307	307	307	308	308	308	308	308	308	309	309
	小児科	199	199	199	199	199	200	200	200	200	200	200	201	201
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	インフルエンザ	2,413	3,901	7,987	12,220	12,112	8,206	6,217	3,656	2,463	1,807	1,363	910	756
	RSウイルス感染症	153	126	128	138	114	66	102	75	68	93	94	79	59
	咽頭結膜熱	79	68	56	50	72	71	71	77	97	97	103	82	88
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	162	236	333	315	252	295	377	458	396	435	469	355	331
	感染性胃腸炎	768	974	1,008	949	879	815	787	839	933	1,075	1,034	993	1,068
	水痘	111	84	64	71	59	67	76	60	67	65	79	76	63
	手足口病	33	27	41	46	40	35	43	30	49	56	47	35	37
	伝染性紅斑	6	3	13	4	4	5	5	6	7	6	7	5	8
	突発性発しん	42	91	84	69	59	60	87	78	78	74	78	76	78
	百日咳	1	0	3	2	1	0	0	0	0	0	1	0	3
	ヘルパンギーナ	10	9	8	2	5	4	10	8	9	5	10	6	12
	流行性耳下腺炎	248	246	194	162	162	149	148	151	176	179	179	143	127
	急性出血性結膜炎	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	14	14	24	11	23	7	11	6	19	14	8	4	12
	合計（RSウィー流行性角結）	1,628	1,879	1,956	1,820	1,670	1,574	1,718	1,788	1,899	2,099	2,109	1,854	1,886
	細菌性髄膜炎	2	0	0	2	0	0	0	1	1	0	1	0	4
	無菌性髄膜炎	0	0	1	1	1	1	0	0	2	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	13	16	19	11	8	1	11	13	7	10	7	7	9
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0	1	2	0	0	10	6	9	12	16	7	6
	合計（細菌性髄ーロタウイルス）	15	16	21	16	9	2	21	20	19	22	24	14	19

		7月					8月				9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	インフルエンザ	307	307	307	307	306	306	306	306	306	306	306	306	306
	小児科	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	インフルエンザ	11	21	22	22	14	16	28	34	54	35	35	19	43
	RSウイルス感染症	60	141	191	286	404	406	495	534	782	730	751	522	475
	咽頭結膜熱	145	129	109	141	139	86	77	87	124	93	86	48	54
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	586	479	370	346	275	203	189	251	249	322	312	270	363
	感染性胃腸炎	1,142	1,067	780	891	747	585	541	655	747	632	697	529	603
	水痘	103	92	71	99	71	49	53	55	49	43	48	42	54
	手足口病	2,190	2,875	2,390	1,875	1,366	868	497	438	370	274	232	176	151
	伝染性紅斑	14	17	29	4	10	10	1	2	3	10	3	4	8
	突発性発しん	136	126	108	101	87	73	81	89	87	88	100	71	79
	百日咳	3	3	2	2	8	2	2	1	2	1	1	0	3
	ヘルパンギーナ	308	480	386	421	387	265	164	183	182	123	108	90	69
	流行性耳下腺炎	81	74	74	93	75	45	56	55	59	48	35	48	52
	急性出血性結膜炎	7	2	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1
	流行性角結膜炎	29	42	29	35	32	29	35	40	28	29	38	23	17
	合計（RSウィー流行性角結）	4,804	5,527	4,539	4,295	3,602	2,621	2,191	2,390	2,683	2,393	2,411	1,824	1,929
	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	2	1	0	3	1	2	6	2	1	2	1	0	0
	マイコプラズマ肺炎	8	4	7	3	2	7	3	4	4	4	4	2	6
	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計（細菌性髄ーロタウイルス）	11	6	7	7	4	9	9	6	5	7	5	2	6

I 定点把握感染症(性感染症を除く)

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
633	602	523	468	322	203	137	90	59	43	41	38	15
64	65	95	80	69	69	67	54	37	36	40	31	45
68	69	78	109	105	157	159	223	186	189	203	170	152
352	383	486	509	422	559	627	722	679	703	743	709	610
1,015	1,277	1,387	1,519	1,280	1,557	1,572	1,629	1,509	1,501	1,695	1,662	1,356
76	56	62	62	59	102	72	82	70	97	68	89	108
69	128	192	252	219	260	414	455	600	741	888	965	1,310
9	12	7	12	7	10	8	13	8	8	8	10	10
95	99	115	105	91	119	116	122	111	91	110	112	110
3	2	2	2	2	5	2	2	0	6	5	4	2
12	9	16	17	22	31	50	63	92	140	172	185	226
130	124	110	89	98	121	103	94	78	85	89	87	117
1	0	0	3	0	2	2	3	1	0	1	0	1
12	13	13	11	9	15	16	20	22	28	23	34	23
1,906	2,237	2,563	2,770	2,383	3,007	3,208	3,482	3,393	3,625	4,045	4,058	4,070
0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
0	0	1	1	0	2	1	0	0	2	1	2	1
2	6	3	4	8	3	8	3	5	3	4	2	6
0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
13	17	21	17	20	20	13	12	14	4	1	2	4
15	23	26	22	28	26	22	15	20	10	6	6	11

10月				11月				12月				合計	
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週		52週
306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	15952
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	10397
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	2704
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	884
88	45	43	62	82	98	147	240	470	817	1,595	2,934	4,494	78,654
470	353	268	306	254	268	218	249	281	326	311	297	250	11,675
58	55	51	70	57	80	98	89	100	97	107	77	74	5,210
336	317	316	321	352	451	433	407	504	539	586	508	395	21,598
626	578	610	695	664	852	903	914	1,295	1,428	1,471	1,533	1,383	53,649
51	68	67	78	96	105	91	100	126	108	153	109	111	4,037
135	228	138	146	140	107	124	125	83	126	97	98	63	22,324
6	10	1	18	20	13	20	17	15	18	24	28	17	523
95	96	92	85	80	74	63	84	81	71	65	79	48	4,589
5	2	3	2	0	2	2	3	4	2	2	3	0	108
64	63	87	80	70	50	43	56	46	39	25	23	22	4,967
48	42	41	37	39	83	44	55	52	58	35	30	24	4,972
1	1	1	1	2	1	1	0	0	1	0	0	1	42
28	19	22	18	7	19	33	22	30	28	17	31	22	1,108
1,923	1,832	1,697	1,857	1,781	2,105	2,073	2,121	2,617	2,841	2,893	2,816	2,410	134,802
0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	18
0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	3	0	44
2	0	6	6	2	6	8	3	2	3	6	2	2	295
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	1	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2	237
2	1	7	7	3	6	10	6	3	3	8	5	4	597

2017（平成29）年感染症別・週別定点あたり報告状況（大阪府内集計）

		1月					2月				3月			
		1週	2週	3週	4週	5週	6週	7週	8週	9週	10週	11週	12週	13週
定点数	インフルエンザ [*]	307	307	307	307	307	308	308	308	308	308	308	309	309
	小児科	199	199	199	199	199	200	200	200	200	200	200	201	201
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	インフルエンザ	7.86	12.71	26.02	39.80	39.45	26.64	20.19	11.87	8.00	5.87	4.43	2.94	2.45
	RSウイルス感染症	0.77	0.63	0.64	0.69	0.57	0.33	0.51	0.38	0.34	0.47	0.47	0.39	0.29
	咽頭結膜熱	0.40	0.34	0.28	0.25	0.36	0.36	0.36	0.39	0.49	0.49	0.52	0.41	0.44
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.81	1.19	1.67	1.58	1.27	1.48	1.89	2.29	1.98	2.18	2.35	1.77	1.65
	感染性胃腸炎	3.86	4.89	5.07	4.77	4.42	4.08	3.94	4.20	4.67	5.38	5.17	4.94	5.31
	水痘	0.56	0.42	0.32	0.36	0.30	0.34	0.38	0.30	0.34	0.33	0.40	0.38	0.31
	手足口病	0.17	0.14	0.21	0.23	0.20	0.18	0.22	0.15	0.25	0.28	0.24	0.17	0.18
	伝染性紅斑	0.03	0.02	0.07	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.04	0.03	0.04	0.02	0.04
	突発性発しん	0.21	0.46	0.42	0.35	0.30	0.30	0.44	0.39	0.39	0.37	0.39	0.38	0.39
	百日咳	0.01	0.00	0.02	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00	0.01
	ヘルパンギーナ	0.05	0.05	0.04	0.01	0.03	0.02	0.05	0.04	0.05	0.03	0.05	0.03	0.06
	流行性耳下腺炎	1.25	1.24	0.97	0.81	0.81	0.75	0.74	0.76	0.88	0.90	0.90	0.71	0.63
	急性出血性結膜炎	0.02	0.02	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流行性角結膜炎	0.27	0.27	0.46	0.21	0.44	0.13	0.21	0.12	0.37	0.27	0.15	0.08	0.23
	細菌性髄膜炎	0.12	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.24
	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.06	0.06	0.06	0.06	0.00	0.00	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎	0.76	0.94	1.12	0.65	0.47	0.06	0.65	0.76	0.41	0.59	0.41	0.41	0.53
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.00	0.00	0.06	0.12	0.00	0.00	0.59	0.35	0.53	0.71	0.94	0.41	0.35

		7月					8月				9月			
		27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週	38週	39週
定点数	インフルエンザ [*]	307	307	307	307	306	306	306	306	306	306	306	306	306
	小児科	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
	眼科	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
	基幹	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
	インフルエンザ	0.04	0.07	0.07	0.07	0.05	0.05	0.09	0.11	0.18	0.11	0.11	0.06	0.14
	RSウイルス感染症	0.30	0.71	0.96	1.43	2.02	2.03	2.48	2.67	3.91	3.65	3.76	2.61	2.38
	咽頭結膜熱	0.73	0.65	0.55	0.71	0.70	0.43	0.39	0.44	0.62	0.47	0.43	0.24	0.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.93	2.40	1.85	1.73	1.38	1.02	0.95	1.26	1.25	1.61	1.56	1.35	1.82
	感染性胃腸炎	5.71	5.34	3.90	4.46	3.74	2.93	2.71	3.28	3.74	3.16	3.49	2.65	3.02
	水痘	0.52	0.46	0.36	0.50	0.36	0.25	0.27	0.28	0.25	0.22	0.24	0.21	0.27
	手足口病	10.95	14.38	11.95	9.38	6.83	4.34	2.49	2.19	1.85	1.37	1.16	0.88	0.76
	伝染性紅斑	0.07	0.09	0.15	0.02	0.05	0.05	0.01	0.01	0.02	0.05	0.02	0.02	0.04
	突発性発しん	0.68	0.63	0.54	0.51	0.44	0.37	0.41	0.45	0.44	0.44	0.50	0.36	0.40
	百日咳	0.02	0.02	0.01	0.01	0.04	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.02
	ヘルパンギーナ	1.54	2.40	1.93	2.11	1.94	1.33	0.82	0.92	0.91	0.62	0.54	0.45	0.35
	流行性耳下腺炎	0.41	0.37	0.37	0.47	0.38	0.23	0.28	0.28	0.30	0.24	0.18	0.24	0.26
	急性出血性結膜炎	0.13	0.04	0.00	0.02	0.02	0.00	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.02
	流行性角結膜炎	0.56	0.81	0.56	0.67	0.62	0.56	0.67	0.77	0.54	0.56	0.73	0.44	0.33
	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無菌性髄膜炎	0.12	0.06	0.00	0.18	0.06	0.12	0.35	0.12	0.06	0.12	0.06	0.00	0.00
	マイコプラズマ肺炎	0.47	0.24	0.41	0.18	0.12	0.41	0.18	0.24	0.24	0.24	0.24	0.12	0.35
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.06	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

I 定点把握感染症(性感染症を除く)

4月				5月					6月			
14週	15週	16週	17週	18週	19週	20週	21週	22週	23週	24週	25週	26週
307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307	307
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
2.06	1.96	1.70	1.52	1.05	0.66	0.45	0.29	0.19	0.14	0.13	0.12	0.05
0.32	0.33	0.48	0.40	0.35	0.35	0.34	0.27	0.19	0.18	0.20	0.16	0.23
0.34	0.35	0.39	0.55	0.53	0.79	0.80	1.12	0.93	0.95	1.02	0.85	0.76
1.76	1.92	2.43	2.55	2.11	2.80	3.14	3.61	3.40	3.52	3.72	3.55	3.05
5.08	6.39	6.94	7.60	6.40	7.79	7.86	8.15	7.55	7.51	8.48	8.31	6.78
0.38	0.28	0.31	0.31	0.30	0.51	0.36	0.41	0.35	0.49	0.34	0.45	0.54
0.35	0.64	0.96	1.26	1.10	1.30	2.07	2.28	3.00	3.71	4.44	4.83	6.55
0.05	0.06	0.04	0.06	0.04	0.05	0.04	0.07	0.04	0.04	0.04	0.05	0.05
0.48	0.50	0.58	0.53	0.46	0.60	0.58	0.61	0.56	0.46	0.55	0.56	0.55
0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.03	0.01	0.01	0.00	0.03	0.03	0.02	0.01
0.06	0.05	0.08	0.09	0.11	0.16	0.25	0.32	0.46	0.70	0.86	0.93	1.13
0.65	0.62	0.55	0.45	0.49	0.61	0.52	0.47	0.39	0.43	0.45	0.44	0.59
0.02	0.00	0.00	0.06	0.00	0.04	0.04	0.06	0.02	0.00	0.02	0.00	0.02
0.23	0.25	0.25	0.21	0.17	0.29	0.31	0.38	0.42	0.54	0.44	0.65	0.44
0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00
0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.12	0.06	0.00	0.00	0.12	0.06	0.12	0.06
0.12	0.35	0.18	0.24	0.47	0.18	0.47	0.18	0.29	0.18	0.24	0.12	0.35
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
0.76	1.00	1.24	1.00	1.18	1.18	0.76	0.71	0.82	0.24	0.06	0.12	0.24

10月					11月				12月				平均	
40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週		
306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	306	307
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
0.29	0.15	0.14	0.20	0.27	0.32	0.48	0.78	1.54	2.67	5.21	9.59	14.69	4.92	
2.35	1.77	1.34	1.53	1.27	1.34	1.09	1.25	1.41	1.63	1.56	1.49	1.25	1.12	
0.29	0.28	0.26	0.35	0.29	0.40	0.49	0.45	0.50	0.49	0.54	0.39	0.37	0.50	
1.68	1.59	1.58	1.61	1.76	2.26	2.17	2.04	2.52	2.70	2.93	2.54	1.98	2.08	
3.13	2.89	3.05	3.48	3.32	4.26	4.52	4.57	6.48	7.14	7.36	7.67	6.92	5.16	
0.26	0.34	0.34	0.39	0.48	0.53	0.46	0.50	0.63	0.54	0.77	0.55	0.56	0.39	
0.68	1.14	0.69	0.73	0.70	0.54	0.62	0.63	0.42	0.63	0.49	0.49	0.32	2.15	
0.03	0.05	0.01	0.09	0.10	0.07	0.10	0.09	0.08	0.09	0.12	0.14	0.09	0.05	
0.48	0.48	0.46	0.43	0.40	0.37	0.32	0.42	0.41	0.36	0.33	0.40	0.24	0.44	
0.03	0.01	0.02	0.01	0.00	0.01	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	0.02	0.00	0.01	
0.32	0.32	0.44	0.40	0.35	0.25	0.22	0.28	0.23	0.20	0.13	0.12	0.11	0.48	
0.24	0.21	0.21	0.19	0.20	0.42	0.22	0.28	0.26	0.29	0.18	0.15	0.12	0.48	
0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.02	0.02	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00	0.02	0.02	
0.54	0.37	0.42	0.35	0.13	0.37	0.63	0.42	0.58	0.54	0.33	0.60	0.42	0.41	
0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.06	0.00	0.06	0.00	0.00	0.02	
0.00	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.18	0.00	0.05	
0.12	0.00	0.35	0.35	0.12	0.35	0.47	0.18	0.12	0.18	0.35	0.12	0.12	0.33	
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
0.00	0.06	0.06	0.00	0.00	0.00	0.06	0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.12	0.27	

2017（平成29）年 感染症別・ブロック別報告状況（大阪府内集計）

ブロック名	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	合 計
	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市 北部	大阪市 西部	大阪市 東部	大阪市 南部	
*1 インフルエンザ	1,902	1,295	2,249	1,612	1,248	1,508	1,781	1,029	780	1,144	1,404	15,952
*2 小児科	1,196	879	1,404	1,040	832	988	1,105	717	520	780	936	10,397
*3 眼科	260	208	312	260	208	260	312	260	104	312	208	2,704
*4 基幹	104	104	104	104	52	104	104	52	52	52	52	884
*1 インフルエンザ	7,524	4,632	12,349	7,480	8,838	7,029	8,659	5,766	6,127	4,872	5,378	78,654
*2 RSウイルス感染症	883	531	1,886	1,179	1,478	797	1,278	1,423	876	574	770	11,675
咽頭結膜熱	347	337	965	739	532	296	458	307	181	391	657	5,210
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,740	1,850	2,635	2,455	2,514	1,506	2,541	1,289	1,082	1,081	1,905	21,598
感染性胃腸炎	5,210	3,972	8,867	7,931	7,143	2,382	7,249	3,606	2,032	2,205	3,052	53,649
水痘	357	284	682	598	411	196	374	452	266	214	203	4,037
手足口病	2,036	1,400	3,697	2,731	2,703	1,431	2,153	1,918	1,255	1,090	1,910	22,324
伝染性紅斑	44	37	51	124	76	12	57	26	6	63	27	523
突発性発しん	471	272	802	661	461	233	572	362	208	240	307	4,589
百日咳	11	4	12	15	13	10	14	11	11	7	0	108
ヘルパンギーナ	428	460	954	450	294	334	572	672	344	211	248	4,967
流行性耳下腺炎	319	382	1,139	715	590	225	648	346	192	256	160	4,972
*3 急性出血性結膜炎	0	3	2	0	0	8	11	7	1	2	8	42
流行性角結膜炎	186	120	122	108	51	98	68	106	47	71	131	1,108
合 計	13,032	9,652	21,814	17,706	16,266	7,528	15,995	10,525	6,501	6,405	9,378	134,802
*4 細菌性髄膜炎	1	2	1	1	4	5	1	0	0	3	0	18
無菌性髄膜炎	5	4	1	0	5	27	0	0	0	2	0	44
マイコプラズマ肺炎	4	34	30	33	21	58	77	0	2	34	2	295
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	3
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	24	37	4	6	65	57	6	14	0	24	0	237
合計[細菌性髄膜炎 －感染性胃腸炎(ロタウイルス)]	34	77	37	40	95	149	84	14	2	63	2	597
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	88	41	42	28	352	56	80	62	18	0	71	838
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	22	3	0	6	9	35	9	0	1	0	0	85
薬剤耐性緑膿菌感染症	2	2	1	0	3	1	0	0	0	0	0	9
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 －薬剤耐性アシネトバクター感染症)	112	46	43	34	364	92	89	62	19	0	71	932

2017(平成29)年感染症別・年齢別報告状況(大阪府内集計)

(年齢別)

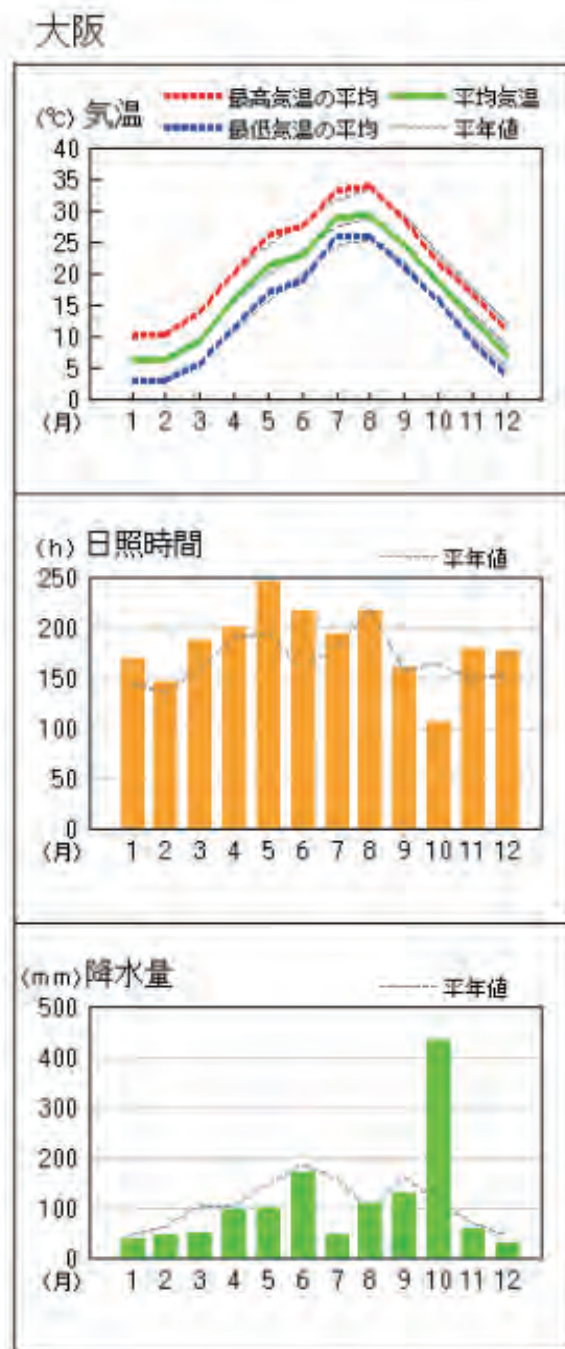
年齢 区分	6	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	15	20	30	40	50	60	合計
	ヶ月未 満	ヶ月未 満	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳 から 14 歳	歳 から 19 歳	歳 から 29 歳	歳 から 39 歳	歳 から 49 歳	歳 から 59 歳	歳 から	
インフルエンザ	346	1,008	3,484	3,577	4,261	5,322	5,450	5,365	4,975	4,693	4,141	13,884	3,849	18,299					78,654
RSウイルス感染症	1,841	2,492	4,064	1,833	863	363	135	29	12	11	7	15	0	10					11,675
咽頭結膜熱	31	403	1,371	864	780	686	426	209	111	111	59	75	15	69					5,210
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	215	312	1,310	1,523	2,363	2,893	3,027	2,373	1,835	1,501	1,085	2,074	216	871					21,598
感染性胃腸炎	490	3,770	8,493	6,409	5,581	5,097	4,235	3,114	2,623	2,073	1,773	4,583	1,073	4,335					53,649
水痘	43	174	342	250	377	520	572	477	427	315	182	302	20	36					4,037
手足口病	250	2,238	7,400	4,567	2,803	1,990	1,205	656	352	235	117	272	34	205					22,324
伝染性紅斑	1	14	37	48	55	80	93	68	43	35	20	25	1	3					523
突発性発しん	74	1,585	2,373	414	89	36	14	2	1	0	1	0	0	0					4,589
百日咳	23	9	13	3	5	3	1	2	2	7	4	11	2	23					108
ヘルパンギーナ	48	520	1,515	934	607	418	327	157	91	77	43	79	7	144					4,967
流行性耳下腺炎	3	13	146	260	485	632	741	662	518	455	349	595	39	74					4,972
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	1	0	1	1	3	0	0	1	2	33					42
流行性角結膜炎	4	13	60	54	31	38	35	18	17	17	13	34	25	749					1,108
合 計	3,023	11,543	27,124	17,159	14,040	12,756	10,812	7,768	6,035	4,837	3,653	8,066	1,434	6,552					134,802
細菌性髄膜炎	1	0	0	0	3	0	3	0	2	1	1	1	0	0	0	1	1	4	18
無菌性髄膜炎	2	0	0	1	5	1	0	1	1	4	1	7	3	4	5	3	4	2	44
マイコプラズマ肺炎	0	1	12	13	21	19	26	15	24	28	19	47	20	14	16	7	4	9	295
クラミア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	9	12	53	35	23	25	23	21	12	13	1	6	1	0	3	0	0	0	237
合計(細菌性髄膜炎 -感染性胃腸炎(ロタウイルス))	12	13	65	50	52	45	52	37	40	46	22	62	24	18	24	11	9	15	597
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	20	9	10	7	6	3	7	11	8	6	4	17	9	19	24	31	49	598	838
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	4	8	18	3	3	1	2	1	1	0	0	1	0	1	2	1	0	39	85
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	9
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 -薬剤耐性アシネトバクター感染症)	24	18	28	10	9	4	9	12	9	6	4	18	9	20	26	32	49	645	932

ブロック別人口動態・ブロック地図

ブロック	市町村区分	定点数	人口	出生数
①豊能	豊中市、池田市、吹田市、箕面市、能勢町、豊能町	内科 13 小児科 23 眼科 5 STD 8 基幹 2 疑似 54	1,041,743	8,821
②三島	高槻市、茨木市、摂津市、島本町	内科 8 小児科 17 眼科 4 STD 5 基幹 6 疑似22	747,084	6,308
③北河内	守口市、寝屋川市、門真市、枚方市、大東市、四条畷市、交野市	内科 16 小児科 27 眼科 6 STD 9 基幹 2 疑似 59	1,158,727	8,352
④中河内	八尾市、柏原市、東大阪市	内科 11 小児科 20 眼科 5 STD 7 基幹 2 疑似 47	839,315	5,897
⑤南河内	藤井寺市、松原市、羽曳野市、富田林市、大阪狭山市、河内長野市、河南町、太子町、千早赤阪村	内科 8 小児科 16 眼科 4 STD 5 基幹 2 疑似 37	609,014	3,961
⑥堺市	堺市	内科 10 小児科 19 眼科 5 STD 7 基幹 2 疑似 49	837,603	6,844
⑦泉州	和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、阪南市、田尻町、熊取町、岬町	内科 13 小児科 21 眼科 6 STD 6 基幹2 疑似 48	902,293	6,534
⑧大阪市北部	北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区	内科 6 小児科 14 眼科 5 STD 8 基幹 1 疑似37	676,719	5,634
⑨大阪市西部	福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区	内科 5 小児科 10 眼科 2 STD 3 基幹 1 疑似 25	476,892	4,369
⑩大阪市東部	中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区	内科 7 小児科 15 眼科 6 STD 4 基幹 1 疑似 38	731,254	6,226
⑪大阪市南部	阿倍野区、住吉区、住之江区、東住吉区、平野区、西成区	内科 9 小児科 18 眼科 4 STD 5 基幹 1 疑似 47	813,054	5,870
合計		内科 106 小児科 200 眼科 52 STD 68 基幹18 疑似470	8,833,698	68,816



〈参 考〉 大阪の気象



大阪管区气象台平成 29 年 (2017) 年報「大阪府の気象」より引用

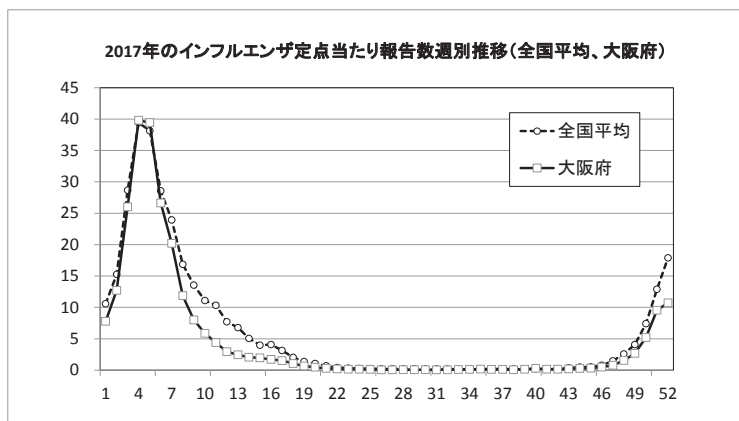
2. 各感染症状況報告

1) インフルエンザ定点把握疾患

●インフルエンザ

2017（平成29）年のインフルエンザの患者発生は、第35週までは2016/2017シーズンを、第36週以降は2017/2018シーズンを反映したものとなる。2017（平成28）年の大阪府内のインフルエンザ定点からの累積患者報告数は77,443（定点当たり累積報告数：243.08）であり、定点当たり累積報告数は全国平均値（326.02）よりも低く、また前年の累積患者報告数96,612（（定点当たり累積報告数：314.70）よりも減少した。これは流行の規模が例年よりも比較的大きかった2015/2016シーズンに比べて、2016/2017シーズンの流行規模が例年と同様であったことを反映しているものと考えられる。2017年中に大阪府のインフルエンザ定点当たり報告数が警報レベルである30.00を上回ったのは全国平均と同様に2017年第4週、第5週の2週間であり、2016年の5週間よりも短期間であった。流行のピークは全国平均と同じで2017年第4週（定点当たり報告数：大阪府39.80、全国平均39.41）であった。大阪府の定点当たり報告数は上記の2017年第4週、第5週は全国平均値を上回っていたが、その後は速やかに減少し、第6週以降以降で全国平均値を上回ったのは第40週のみであった（図）。

20016/2017シーズンのインフルエンザウイルス株の検出状況を見ると（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>）、大阪府では同シーズン期間中に検出された402株中AH3亜型346株（86.1%）、B型34株（8.5%；B型の内訳は山形系統、ビクトリア系統共に17株

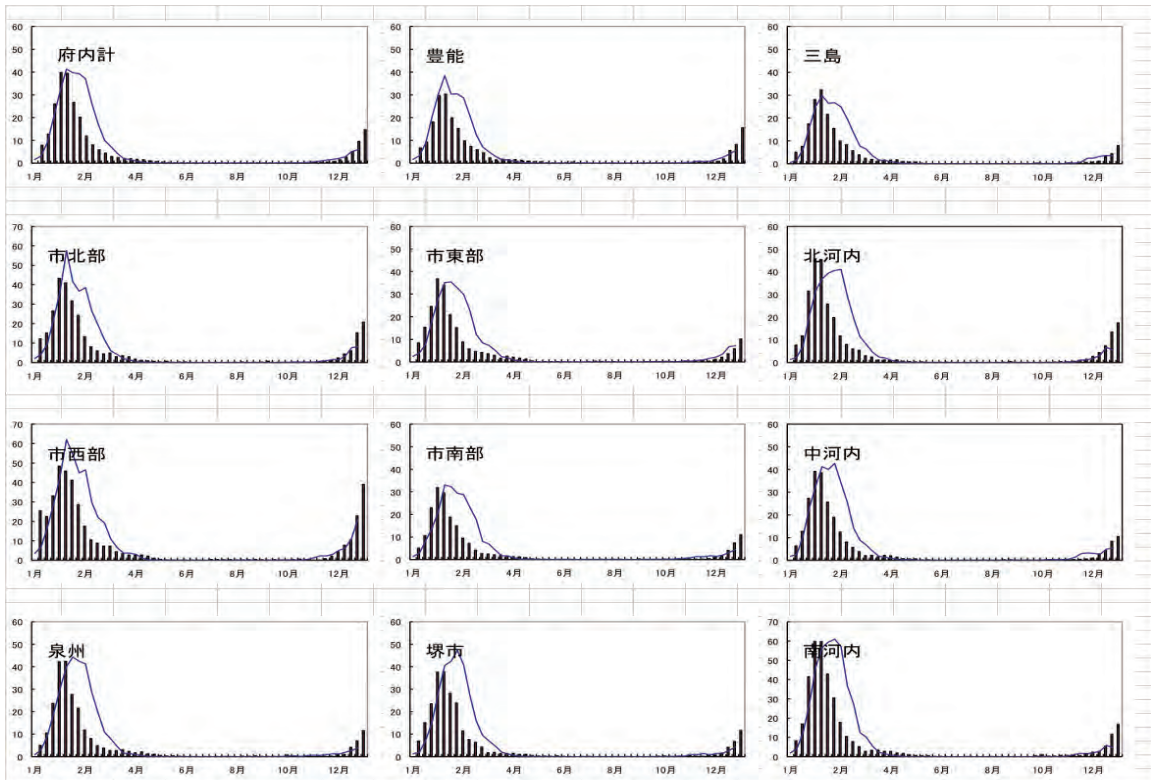


4.2%)、AH1pdm09は22株（5.5%）の順であった。同シーズンの全国でのインフルエンザウイルス株の検出状況（総検出数9539）をみると、AH3亜型7361株（78.7%）、B型1685株（18.0%；B型の内訳はビクトリア系統894株9.6%、山形系統681株7.3%）、AH1pdm09は313株（53.3%）の順となっていた。これをみると20016/2017シーズンのインフルエンザの流行は全国と同様に全シーズン最も検出数の少なかったAH3亜型を中心とした流行であった。一方、2017/2018シーズンは2018年第16週まで（2018年4月27日現在）の大阪府内の状況を見ると、総検出数350株中B型154株（44.0%；山形系統145株41.4%、ビクトリア系統7株2.0%）、AH3亜型123株（35.1%）、AH1pdm09は73株（20.3%）との順となっているのは全国の検出状況（総検出数8260株；B型46.8%、AH3亜型27.4%、AH1pdm0925.8%）と同様であり、これまでのところB型の検出数が最多をしめているものの、A型とB型の混合流行となっている。

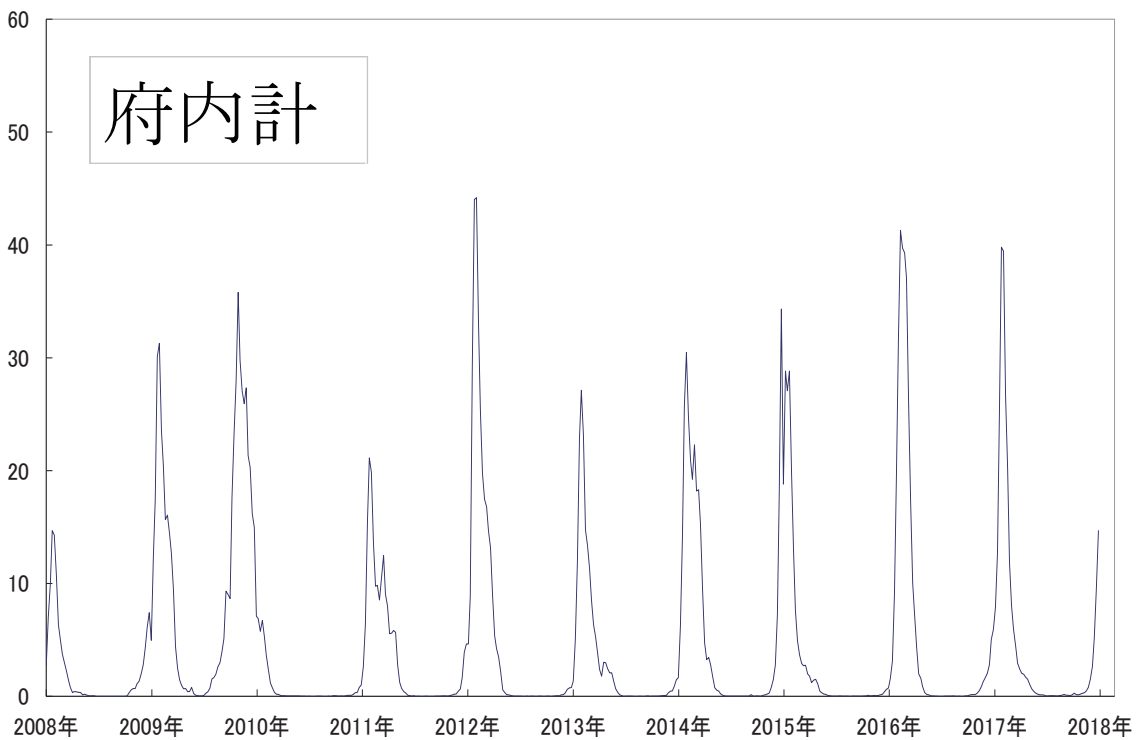
インフルエンザ

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線（2008年第1週～2017年第52週）



2) 小児科定点把握疾患

●RS ウイルス感染症

2017(平成29)年のRSウイルス感染症の患者報告数は11,675例で、前年比36.7%増、総報告数(小児科・眼科定点報告対象疾患)の8.7%を占めた。ここ10年で最も多い患者報告数となった。定点あたりの報告数の年平均は1.12で、順位は第4位であった。

全国集計では139,557例の報告で、前年比33.3%増、総報告数(小児科・眼科定点報告対象疾患)の6.4%を占めた。ここ10年で最も多い患者報告数となった。定点あたりの報告数の年平均は0.85で、順位は第4位であった。

週別(月別)の定点あたりの報告数の推移では、第1週(1月)0.77に始まり、その後漸減して、第25週(6月)に年間最低値の0.16となった。その後第28週(7月)より増加し始め、第30週(7月)に1を超え、第31週(7月)に2を超えて、年間最高値は第35週(8月)の3.91であった。

全国集計では、第1週(1月)0.45に始まり、その後漸減して第12週(3月)に年間最低値の0.18となった。その後第28週(7月)より増加し始め、第30週(7月)に1を超え、第34週(8月)に2を超えて、年間最高値は第37週(9月)の3.34であった。

大阪府内、全国ともに、ここ10年間で最も早い流行開始の立ち上がりとなった。RSウイルス感染症は従来冬期の感染症だったが、2011年(平成23年)以降は7月頃から報告数の増加傾向がみられている。

年齢別患者発生数は、1歳児の4,064例が最も多く、以下12ヶ月未満児2,492例、6ヶ月未満児1,841例、2歳児1,833例と続き、0歳児から2歳児で全体の87.6%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内(1,886例)、⑤南河内(1,478例)、⑧大阪市北部(1,423例)、⑦泉州(1,278例)、④中河内(1,179例)の順であった。

ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位5ブロックは、⑧大阪市北部(1.97)、⑤南河内(1.78)、⑨大阪市西部(1.68)、③北河内(1.34)、⑦泉州(1.16)の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位5ブロックは、⑤南河内(第35週、8.75)、⑨大阪市西部(第35週、7.30)、⑤南河内(第36週、6.94)、⑧大阪市北部(第36週、6.36)、⑤南河内(第37週、6.25)の順であった。

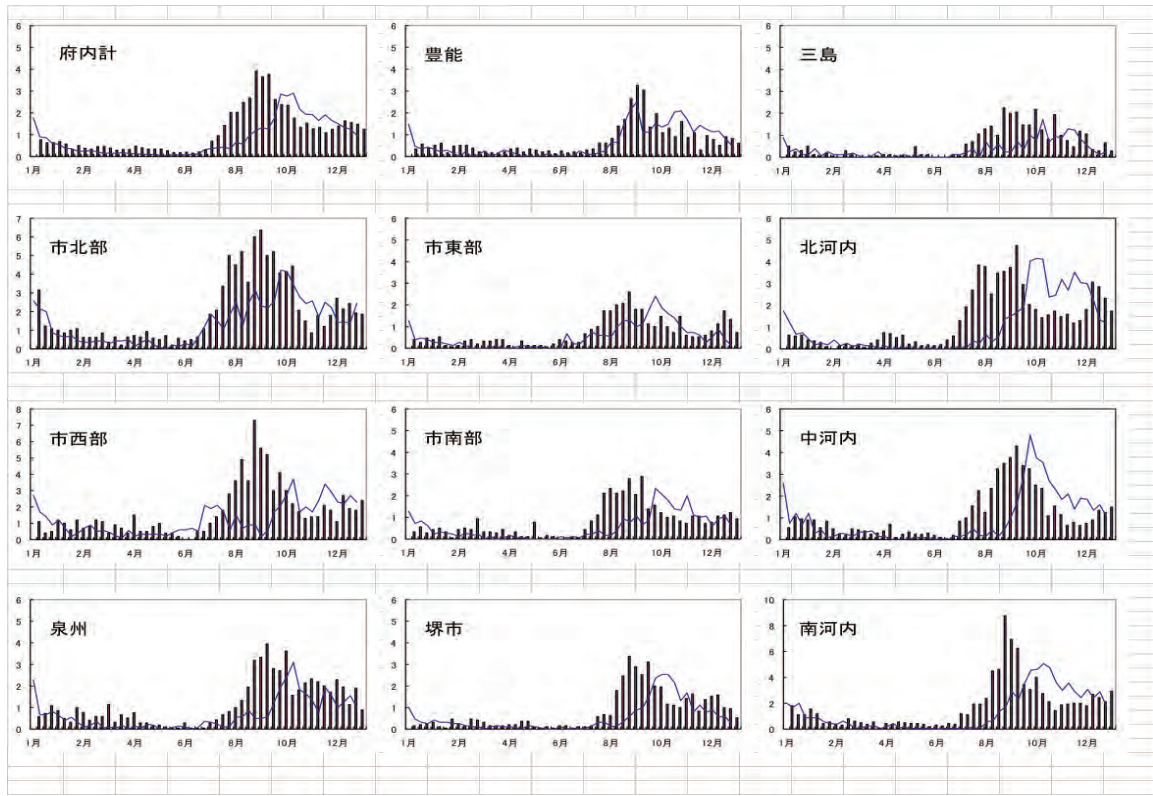
病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は94検体あり、うち76検体(80.9%)が陽性で、RSAが43例、RSBが18例、Rhino-untypeが10例、Ad2が2例、Ad3が2例、Ad5が1例、ECHO6が1例、EV71が1例、hMPVが3例であった。

(文責：富吉)

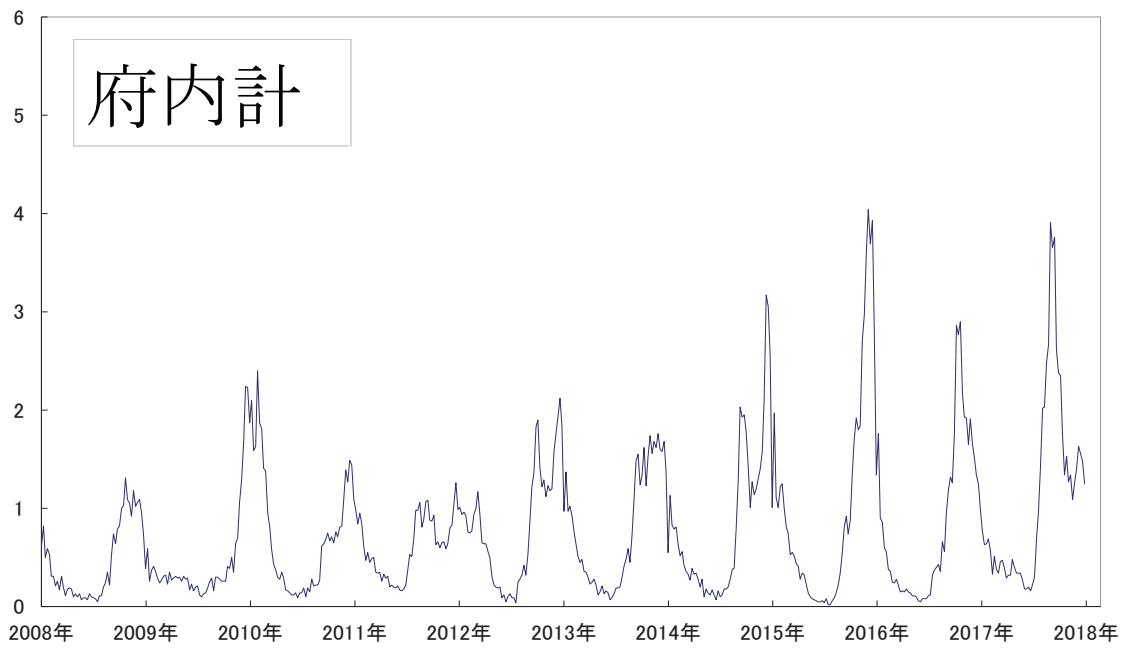
RS ウイルス感染症

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線(2008年第1週～2017年第52週)



●咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は主にアデノウイルス（Ad）3型（他に1、2、5、4、6、7型等でもみられる）に感染することによってみられる咽頭炎、結膜炎を主とする急性ウイルス性感染症である。感染経路は主に飛沫感染、接触感染であるが、その感染力は強力であり、タオル、ドアの把手、エレベーターのボタン、階段の手すり等の患者が触れたものを触ることによっても感染する場合がある特に感染経験の乏しい小児の集団生活施設である保育園、幼稚園、小学校等では流行時期になると集団発生がみられることも珍しくはない。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数の推移をみると、例年その流行は全国・大阪府ともに夏期（6～7月）と冬期（12月）の二峰性のピークとなっている。

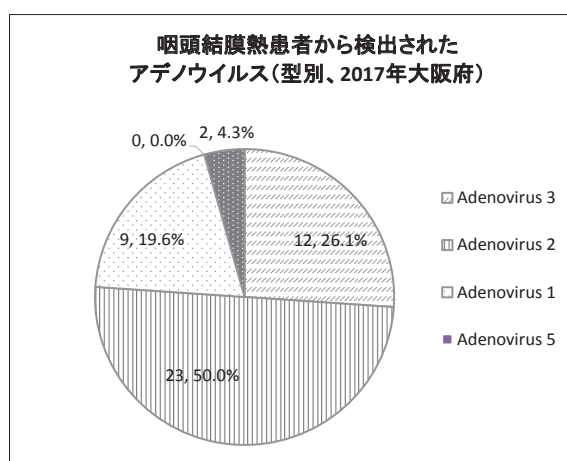
2017（平成28）年の大阪府の小児科定点医療機関からの咽頭結膜熱の累積報告数は5186、定点当たりの累積報告数は26.06（暫定値）であった。2017年の定点当たり累積報告数の全国平均値は29.21であり、過去3年間とは異なり、大阪府が全国平均を下回った。

咽頭結膜熱の夏期の報告数のピークは、大阪府は2017年第21週（定点当たり報告数1.12）であり、全国平均のピーク値（第25週、0.98）よりも高かった。一方、冬期のピークは第50週（定点当たり報告数0.54）と昨年のピーク値（0.83）よりもかなり低く、全国平均のピーク値（第50週、0.85）を大きく下回った（図1）。



大阪府が上記の流行のピークを迎えた第21週のブロック別の定点当たり報告数をみると、大阪市南部2.17、三島1.71、大阪市東部1.53、北河内1.52、大阪市北部1.00の順となっている。

2017年に咽頭結膜熱と診断された患者由来検体から検出されたアデノウイルス株数（暫定値）は、全国で313株あり、Ad3型36.1%、Ad2型34.5%、Ad1型18.2%、Ad5型7.3%、Ad54型3.8%の順であった。一方、大阪府で検出されたアデノウイルス株数は46であり、Ad2型50.0%（23株）、Ad3型26.1%、Ad1型19.6%、Ad54型4.3%、Ad5型0%の順であった（図2）。2016年に引き続いて大阪ではAd2方が最多であった。



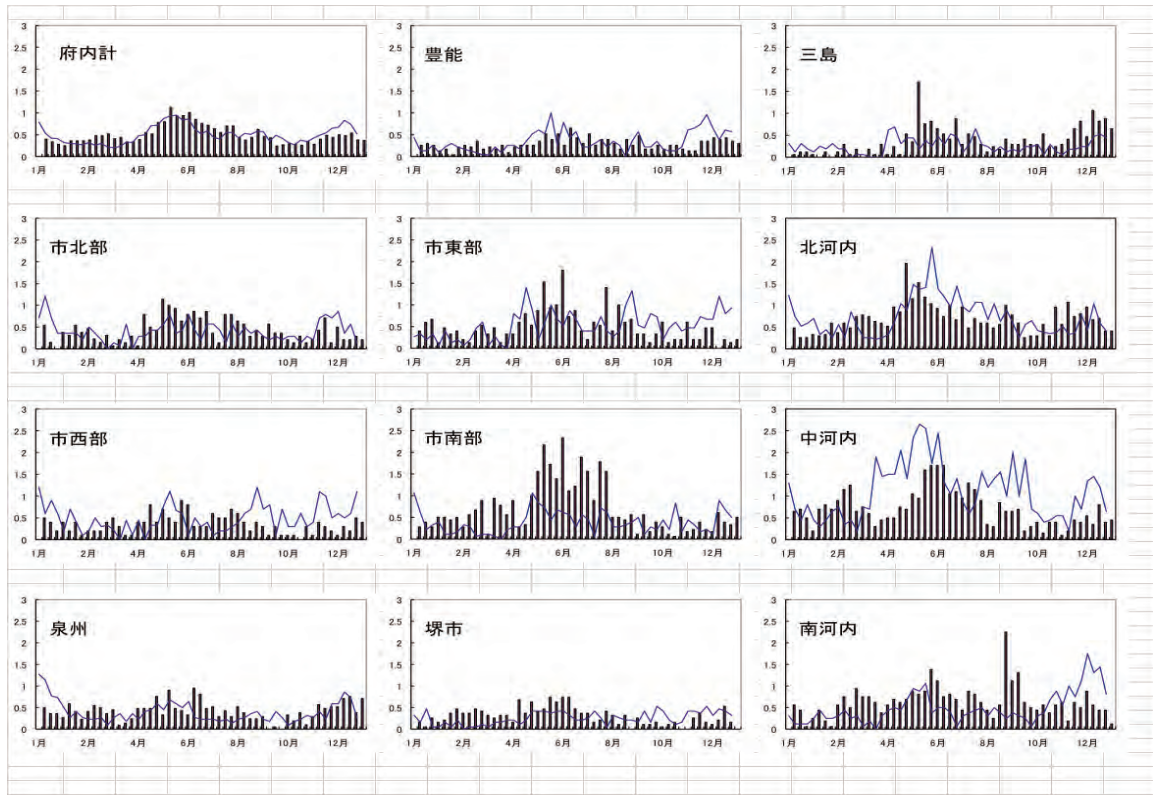
2017年の大阪府の夏期の流行のピーク値1.12(第21週)は2012年以降では2014年第23週(1.25)に次ぐ高さであり、例年と比べても大きな流行であったといえるが、一方で冬期の流行は例年と比較して小規模であり、患者数も少なかった。

(文責：安井)

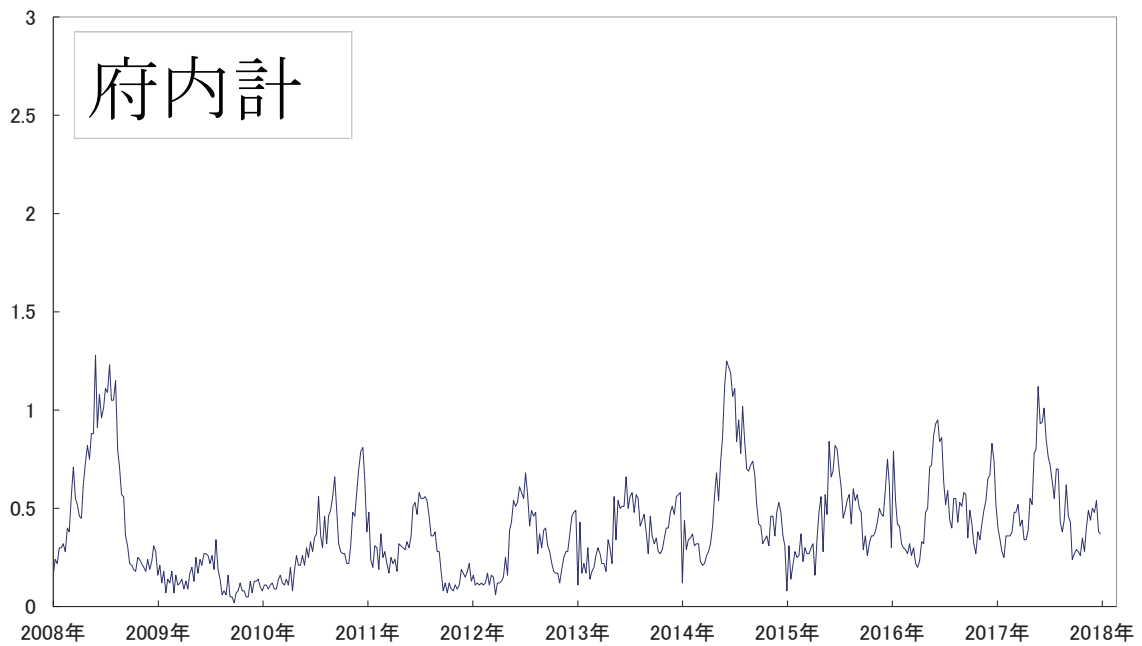
咽頭結膜熱

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線(2008年第1週～2017年第52週)



● A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2017（平成29）年のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者報告数は21,598例で、前年比0.04%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の16.0%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は2.08で、順位は第3位であった。

全国集計では367,325例の報告で、前年比0.1%減、総報告数（小児科・眼科定点報告対象疾患）の16.9%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は2.24で、順位は第2位であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、第1週（1月）および第33週（8月）を除いて通年1.00以上で、第20週（5月）から第26週（6月）にかけて3.0を超えており、年間最高値は第24週（6月）の3.72であった。初夏にピークが認められたが、冬にはピークは認められなかった。全国集計では、第33週（8月）を除いて通年1.00以上で、第20週（5月）から第26週（6月）にかけてと、第49週（12月）、第50週（12月）に3.0を超えており、年間最高値は第24週（6月）の3.59であった。初夏と冬に2つのピークが認められた。

年齢別患者発生数は、5歳児の3,027例が最も多く、以下4歳児2,893例、6歳児2,373例、3歳児2,363例と続き、3歳児から6歳児で全体の49.3%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、①豊能（2,740例）、③北河内（2,635例）、⑦泉州（2,541例）、⑤南河内（2,514例）、④中河内（2,455例）の順であった。

ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位5ブロックは、⑤南河内（3.02）、④中河内（2.36）、⑦泉州（2.30）、①豊能（2.29）、②三島（2.10）の順であった。

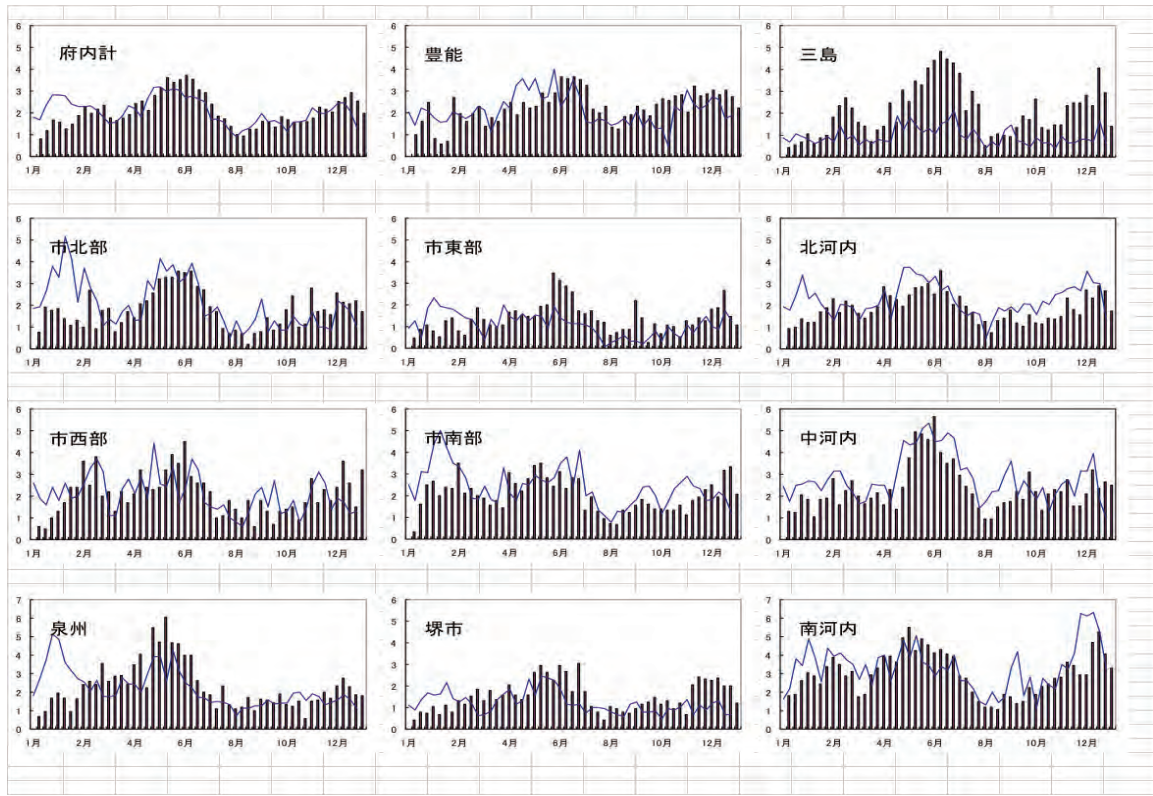
ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位5ブロックは、⑦泉州（第21週、6.05）、④中河内（第24週、5.65）、⑤南河内（第20週、5.50）、⑦泉州（第19週、5.48）、⑤南河内（第50週、5.25）の順であった。

（文責：富吉）

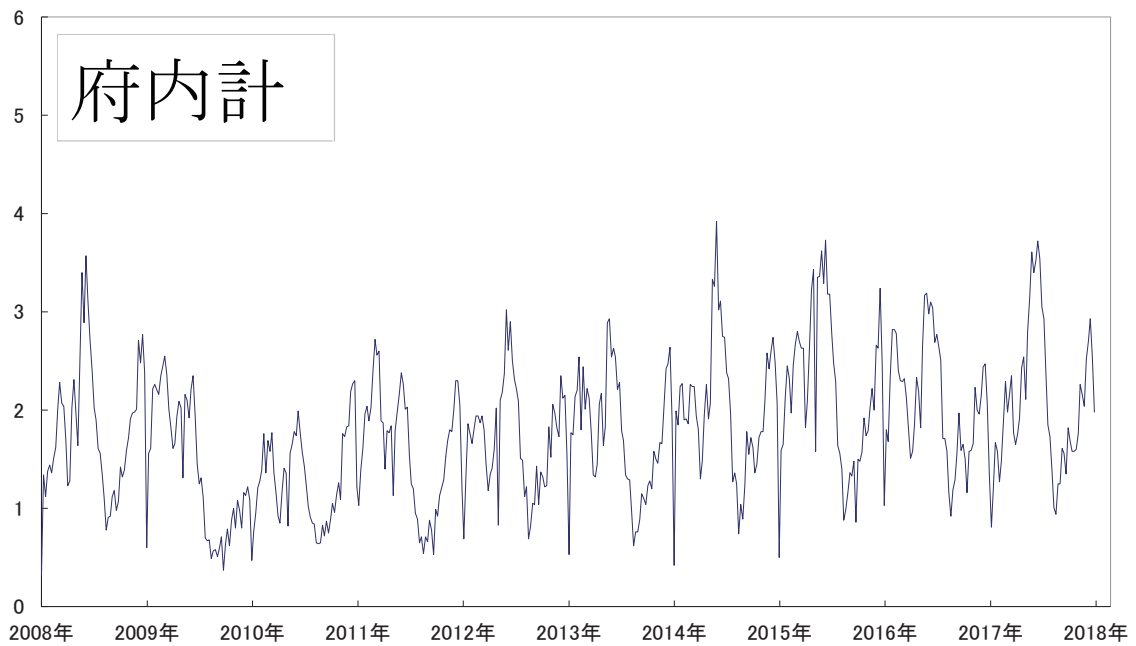
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線(2008年第1週～2017年第52週)



●感染性胃腸炎

2017年（平成29年）の感染性胃腸炎の報告数は53,649例で、前年より20,816例、28.0%減少した。小児科・眼科定点報告対象13疾患総報告数の39.8%を占め、第1位であった。定点あたり報告数の年平均は5.16と前年7.15より27.8%の減少で、過去10年で最低値であった。全国集計では報告数871,922例で21.9%減少し、総報告数の40.2%を占めた。定点あたり報告数は年平均5.31と前年6.81より22.0%減少し、過去10年では2009年（平成21年）の5.09に次いで2番目に低値であった。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週3.86から増減を繰り返しながら増加し、第24週に年間最高値8.48に達した。この値は過去10年で最低値であり、最高値は前年の21.25であった。その後第33週2.71まで急激に減少し、第35週3.74まで増加した後再び減少して、第38週に年間最低値2.65となった。それ以降は増加傾向となり第51週に7.67に達した後減少に転じた。全国集計では、年前半で5.02から7.31の間で増減を繰り返しながら推移し、第24週7.09からは急激に減少して第38週に年間最低値2.60に達した。その後は増加に転じ、第50週に年間最高値8.66に達した。この値も過去10年で最低値であり、最高値は前年の20.96であった。

定点あたり報告数の月別平均値は、6月、5月、12月、4月、3月、11月の順に多かった。春から初夏に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとり、晩秋に再び増加し、冬にピークを持つ流行曲線は例年と同様であった。

定点あたり報告数が警報開始基準値20.0を超えたブロックはなかった。ブロック別の定点あたり報告数の年平均は、⑤南河内8.59、④中河内7.63、⑦泉州6.57、③北河内6.32、⑧大阪市北部5.02、②三島4.51、①豊能4.36、⑨大阪市西部3.91、⑪大阪市南部3.26、⑩大阪市東部2.83、⑥堺市2.41の順であった。

年齢別報告数（0～9歳）は、1歳、2歳、3歳、4歳、0歳、5歳、6歳、7歳、8歳、9歳の順に多かった。0～4歳の報告数は29,840例で全体の55.6%を占めた。5～9歳が13,818例（25.8%）、10～14歳が4,583例（8.5%）、15歳以上が5,408例（10.1%）で、各年齢群の全体に占める割合は例年とほぼ同じであった。

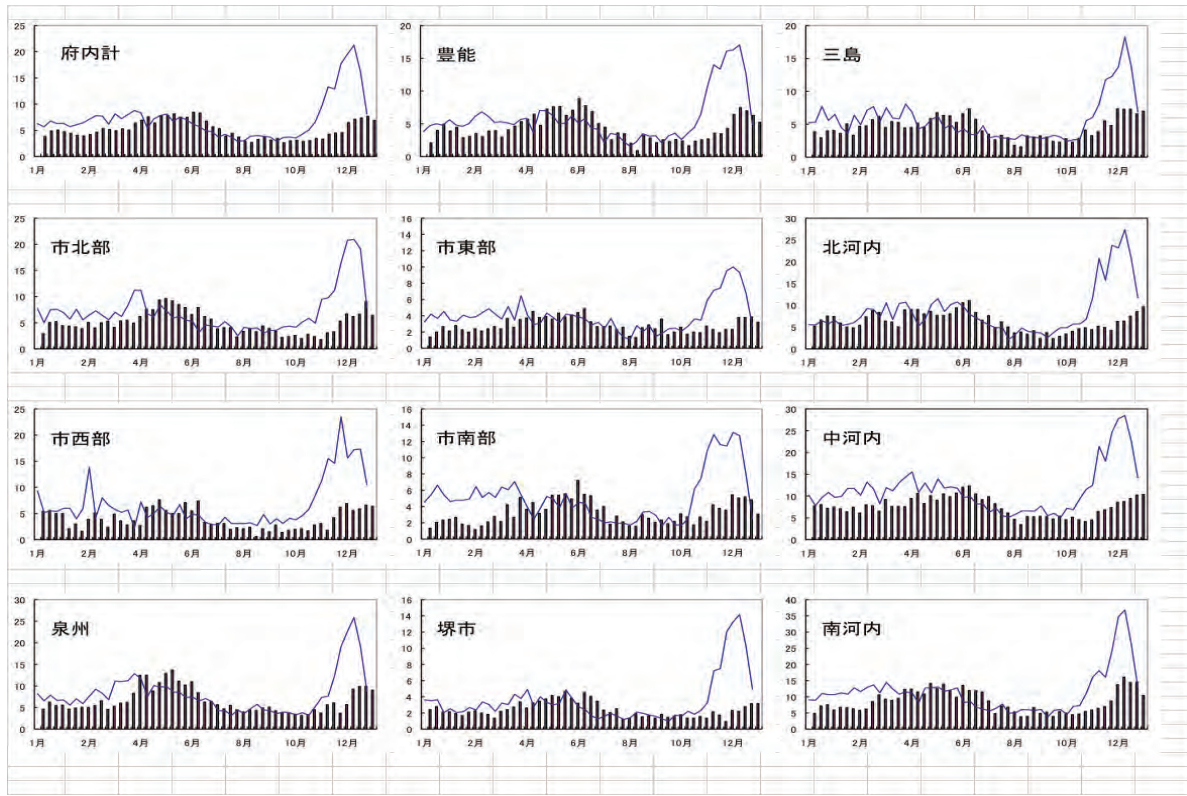
ウイルス検出は262検体のうち陽性だったのは155検体で、陽性率59.2%であった。病原体別でみると、ノロウイルスが58件（陽性検体の37.4%、うちノロウイルスGⅡ.4が32件）、A群ロタウイルスが42件（陽性検体の27.1%）、アデノウイルスが32件（陽性検体の20.6%）、アストロウイルス14件（陽性検体の9.0%）、サポウイルスが8件（陽性検体の5.2%）等であった。

（文責：吉田）

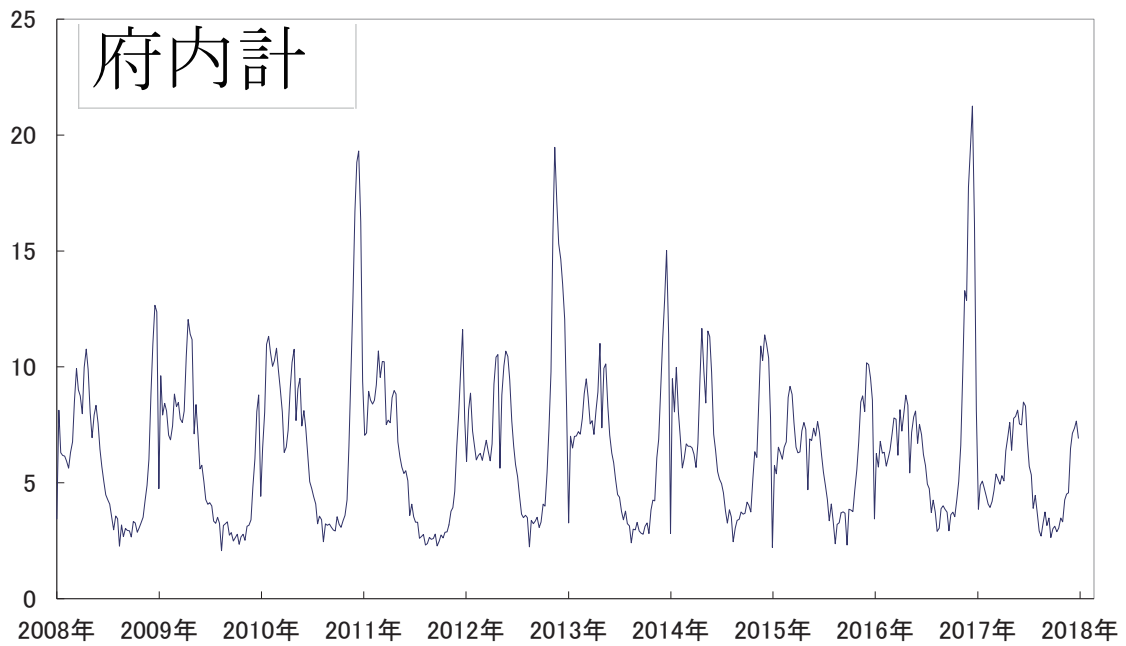
感染性胃腸炎

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線(2008年第1週～2017年第52週)



●水痘

2017年(平成29年)の水痘の報告数は、4,037例で、前年より217例、5.1%減少した。小児科・眼科定点報告対象13疾患総報告数の3.0%を占め、第9位であった。2008年～2010年は第2～3位、2011年～2014年は第3～4位、2015年は第5位、2016年は第8位と、近年の減少傾向は明らかである。定点あたり報告数は年平均0.39で、前年0.41より4.9%減少した。全国集計では60,162例の報告で、前年より5,221例、8.0%減少した。総報告数の2.8%を占め、定点あたり報告数は年平均0.37と前年0.40より7.5%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週0.56から第3週0.32まで減少した後、第18週までは0.28から0.40の間で、第19週～第31週は0.34から0.54の間で、第32週～第37週は0.22から0.28の間で増減を繰り返しながら推移し、本年最低値の第38週0.21に達した。それ以降は増加に転じ、第50週に本年最高値である0.77に達した。全国集計では、第1週0.57から第3週0.35まで減少した後、第18週までは0.28から0.37の間で推移した。第19週0.56、第21週0.51まで増加し、第27週までは0.40から0.46の間で推移した後、本年最低値の第35週～第38週0.20まで減少した。第40週0.23以降は増加に転じ、第50週に本年最高値である0.67に達した。

定点あたり報告数の月別平均値は、12月、11月、6月、7月、1月、5月、10月、3月、2月、4月、8月、9月の順に高かった。例年は冬と春に二峰性のピークを作り、夏から秋にかけて低値をとる流行曲線であるが、本年は春のピークが例年より2か月ほど後ろにずれていた。定点あたり報告数の年間最高値および年平均は、感染症法が施行され現在の感染症発生動向調査事業の体制となった1999年以降の19年間で、両者とも最も低値であった。

ブロック別の定点あたり報告数の年平均は、⑧大阪市北部0.63、④中河内0.58、⑨大阪市西部0.51、③北河内・⑤南河内0.49、⑦泉州0.34、②三島0.32、①豊能0.30、⑩大阪市東部0.27、⑪大阪市南部0.22、⑥堺市0.20の順であった。

年齢別報告数(0～9歳)は、5歳児および4歳児、6歳児、7歳児、3歳児、1歳児、8歳児、2歳児、0歳児、9歳児の順に多かった。0～4歳の報告数は1,706例で全体の42.3%を占め、2014年68.4%、2015年57.4%、2016年48.0%より割合が減少した。逆に5～9歳の報告数は1,973例48.9%を占め2014年28.2%、2015年37.4%、2016年44.5%より割合が増加した。10～14歳の報告数は302例(7.5%)と前年6.0%より割合が増加した。15歳以上の報告数は56例(1.4%)で前年と同じ割合であった。

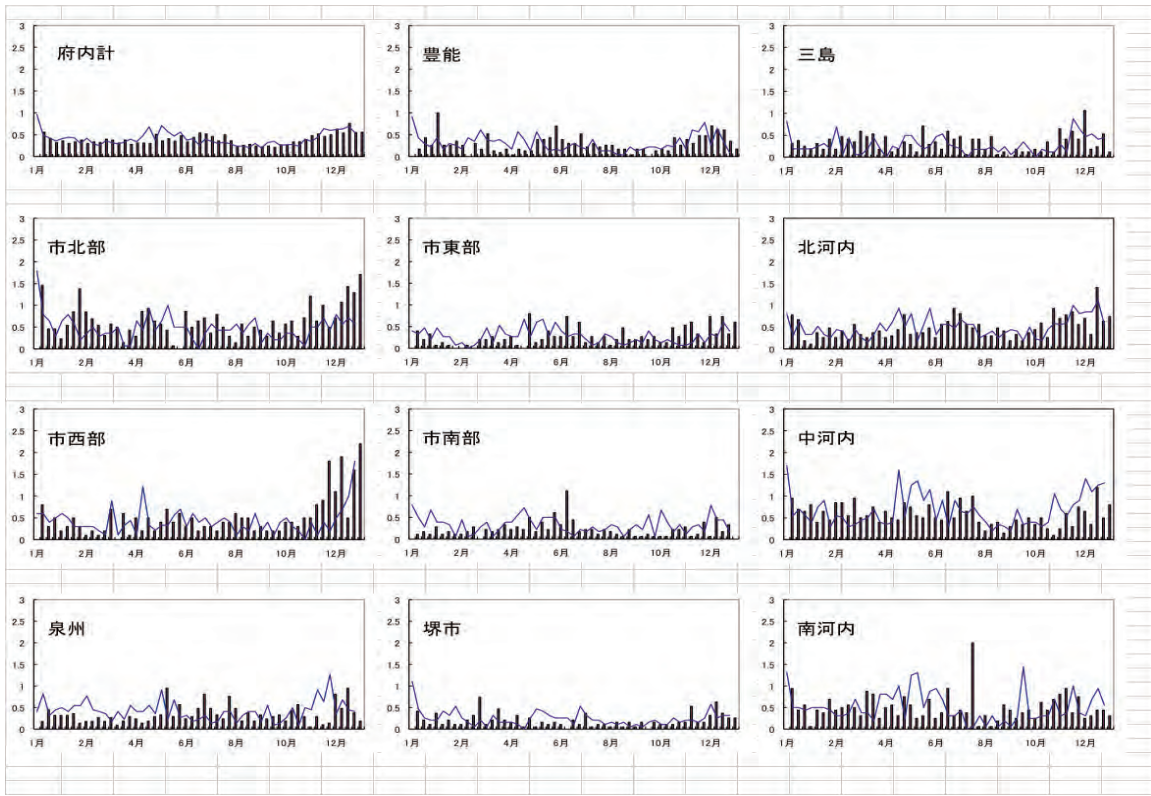
咽頭拭い液11検体中7件、皮膚拭い液・水疱2検体中2件、血液・血清1検体中1件の計10件から水痘帯状疱疹ウイルスが検出された。

(文責：吉田)

水痘

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線(2008年第1週～2017年第52週)



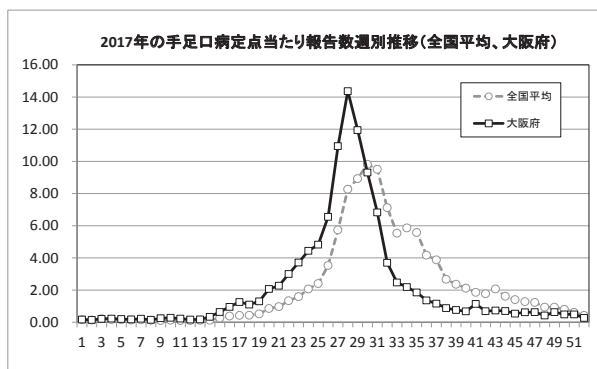
●手足口病

手足口病（hand, foot, and mouth disease：HFMD）は、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス性感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行する疾患である。例年4月頃から患者数が増加し始め、流行のピークは7月の中旬か下旬となり、8月に入ると減少していく、という経過を辿る。病原ウイルスは主にコクサッキー A16（CA16）、エンテロウイルス 71（EV71）であるとされてきたが、近年コクサッキー A6（CA6）を原因ウイルスとする手足口病が目立つようになり、それともなって CA6 の検出割合が増加してきている。

手足口病に特徴的な発疹は口腔粘膜、手掌、足底や足背などの四肢末端に出現する2～3 mmの水疱性発疹とされてきたが、CA6を原因ウイルスとする手足口病の場合の発疹は5mm前後と大きく、上腿、殿部、上腕部、頸部等広範囲にみられることも少なくない。また、これまでの手足口病とは異なり、39℃以上の高熱をきたすこともしばしば認められる。

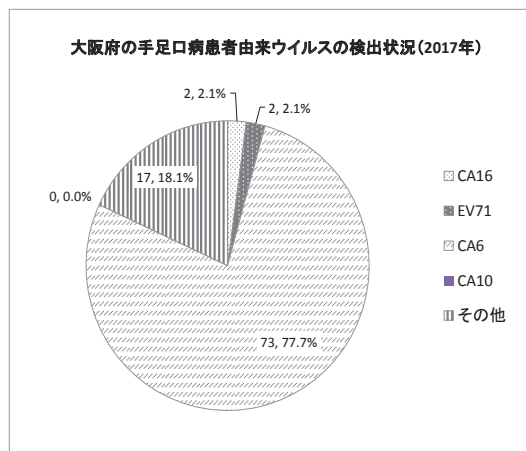
2017年の大阪府の小児科定点医療機関からの手足口病の累積報告数は22,315 定点当たりの累積報告数は112.14（暫定値）であった。2017年の定点当たり累積報告数の全国平均値は113.68であり、大阪府のそれとほぼ同等であった。

手足口病の報告数のピークは、大阪府は2017年第28週（定点当たり報告数14.37）であり、全国平均のピーク値（第30週、9.82）よりもかなり大きく（図1）、2004年以降の過去13年間の大阪府の週毎の報告数と比較しても、2011年第28週（14.87）に次いで2番目に高い値であった。



大阪府が上記の流行のピークを迎えた第28週のブロック別の定点当たり報告数をみると、南河内22.06、北河内17.30、大阪市北部17.00、大阪市西部15.70、泉州15.43の順となっていた。

2017年に手足口病と診断された患者由来検体から検出されたウイルス株数（暫定値）は全国で2217あり、CA6 54.6%、EV71 15.0%、CA16 7.3%、CA10 3.7%の順となっている。一方、大阪府で検出されたウイルス株数は94であり、CA6 77.7%、EV71 2.1%、CA16 2.1%、CA10 0.0%であった。



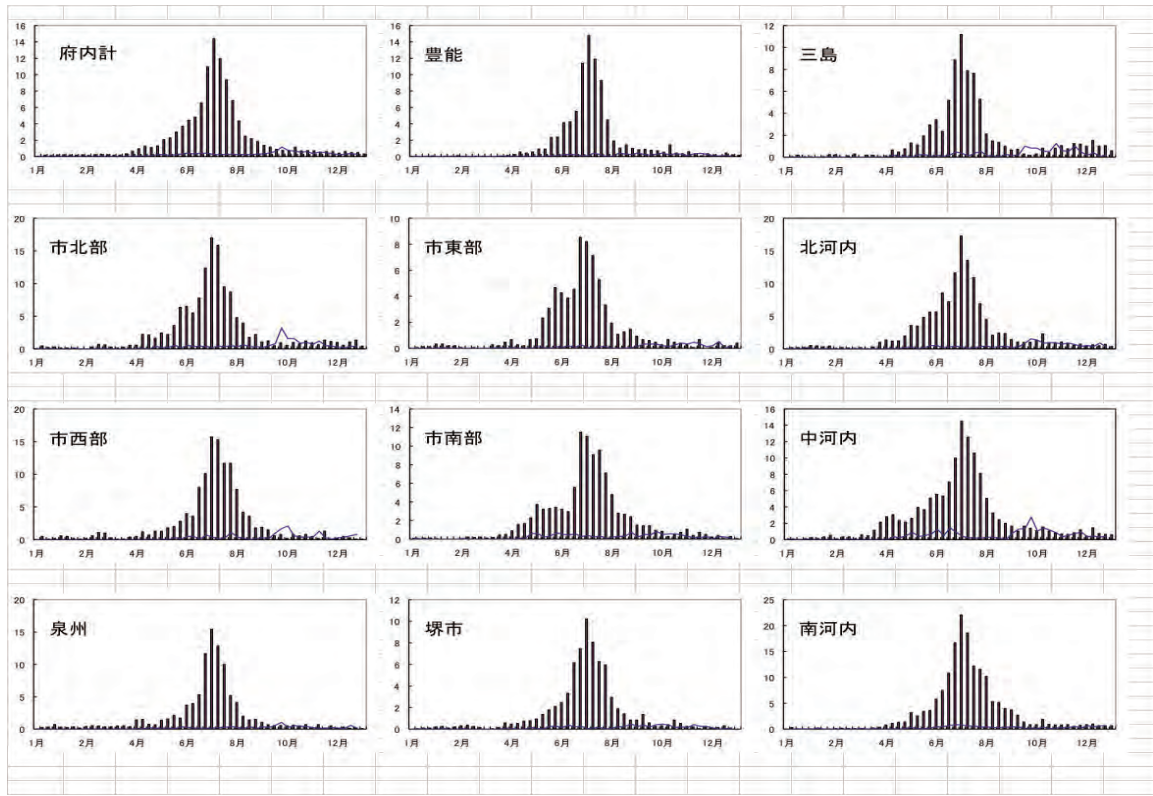
2017年の大阪府の手足口病の流行は2011年以降の大きなものであり、その流行の中心となったウイルスは全国と同様にCA6であった。

（文責：安井）

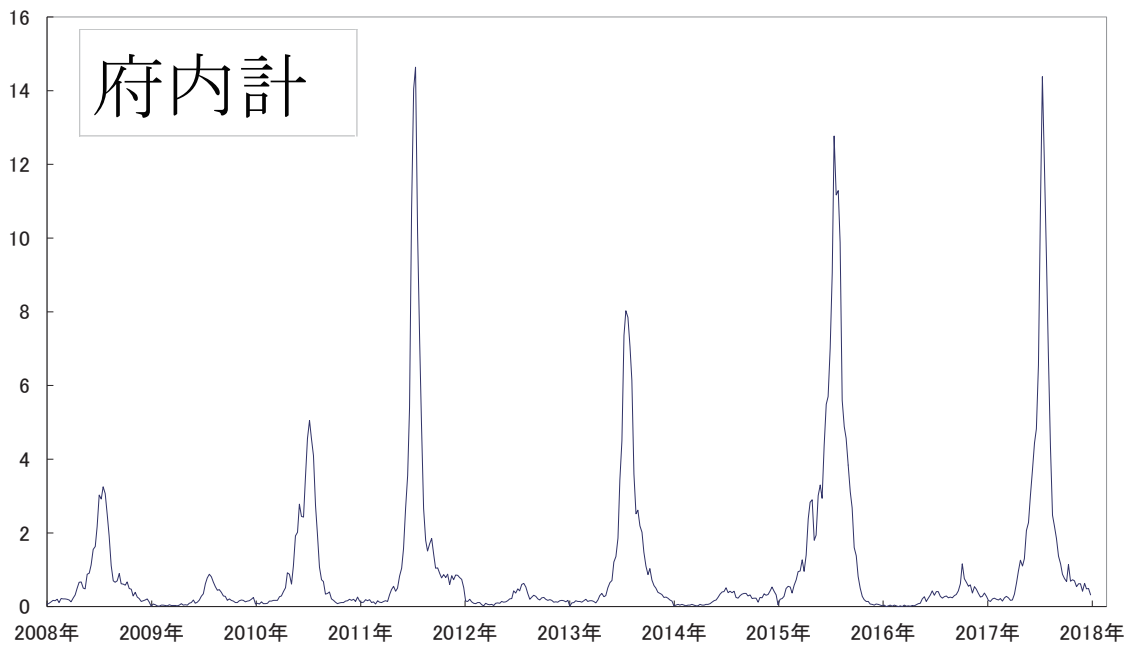
手足口病

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線（2008年第1週～2017年第52週）



●伝染性紅斑

2017年（平成29年）の伝染性紅斑の報告数は523例で、前年の1,998例から1,475例、73.8%減少した。小児科・眼科定点報告対象13疾患総報告数の0.4%を占め第11位であった。定点あたり報告数は年平均0.05で、前年0.19より73.7%減少した。全国集計では12,436例で、前年の51,419例から38,983例、75.8%減少した。総報告数の0.6%を占め、定点あたり報告数は年平均0.08で前年0.31より74.2%減少した。

定点あたり報告数を週別にみると、第1週0.03から増減を繰り返しながら増加し、本年最高値の第29週0.15まで達した後、本年最低値の第33週0.01まで急激に減少した。その後0.01から0.05の間で増減し、第42週0.01から増加に転じ第51週0.14に達した。全国集計では、第1週0.09から第3週0.11まで増加した後第6週0.06まで減少し、第20週まで0.06から0.08までの間で推移した。第23週0.08から本年最高値となる第27週0.12まで増加した後、再び減少傾向となり本年最低値第38週0.04となった。その後増加傾向になり、第48週・第50週0.09に達した後再び減少に転じた。

定点あたり報告数の月別平均値は、12月、11月、7月、10月、4月、5月、6月、3月、9月、1月、2月、8月の順に高かった。春から夏にかけて増加する流行曲線は例年と同じ傾向だが、本年は秋から冬にかけても増加がみられた。

2007年、2011年、2015年と4年毎に比較的大規模な流行（年間最高値が0.9～1.2）があったが、大流行と大流行の間の時期は比較的小さな流行（年間最高値が0.07～0.48）に留まった。過去10年間の定点あたり報告数を見ると、年間最高値、年平均とも2013年に次いで2番目に低値であった。

ブロック別の定点あたり報告数の年平均は、④中河内0.12、⑤南河内0.09、⑧大阪市東部0.08、⑦泉州0.05、①豊能、②三島、③北河内および⑩大阪市北部0.04、⑪大阪市南部0.03、⑥堺市、⑨大阪市西部0.01の順であった。

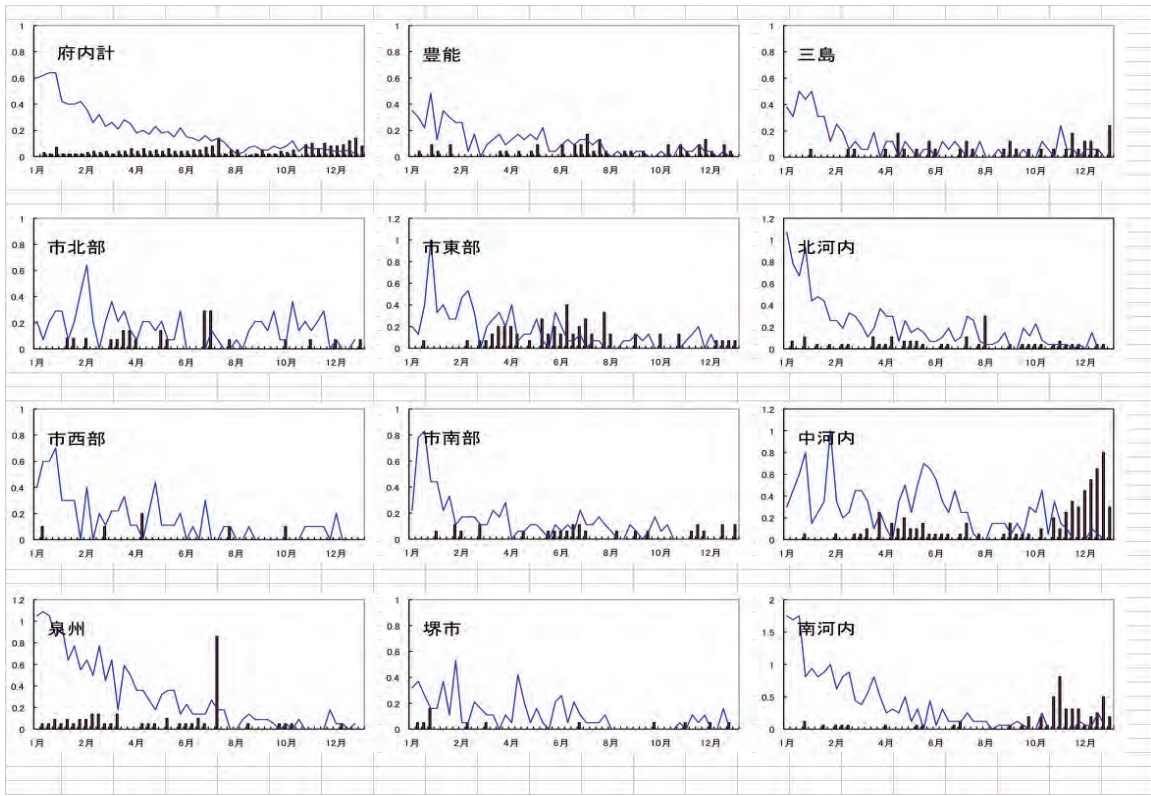
年齢別報告数（0～9歳）は5歳児、4歳児、6歳児、3歳児、2歳児、7歳児、1歳児、8歳児、9歳児、0歳児の順に多かった。5～9歳の報告数は259例で全体の49.5%を占めた。0～4歳、10～14歳、15歳以上の報告数はそれぞれ235例（44.9%）、25例（4.8%）、4例（0.8%）であった。

（文責：吉田）

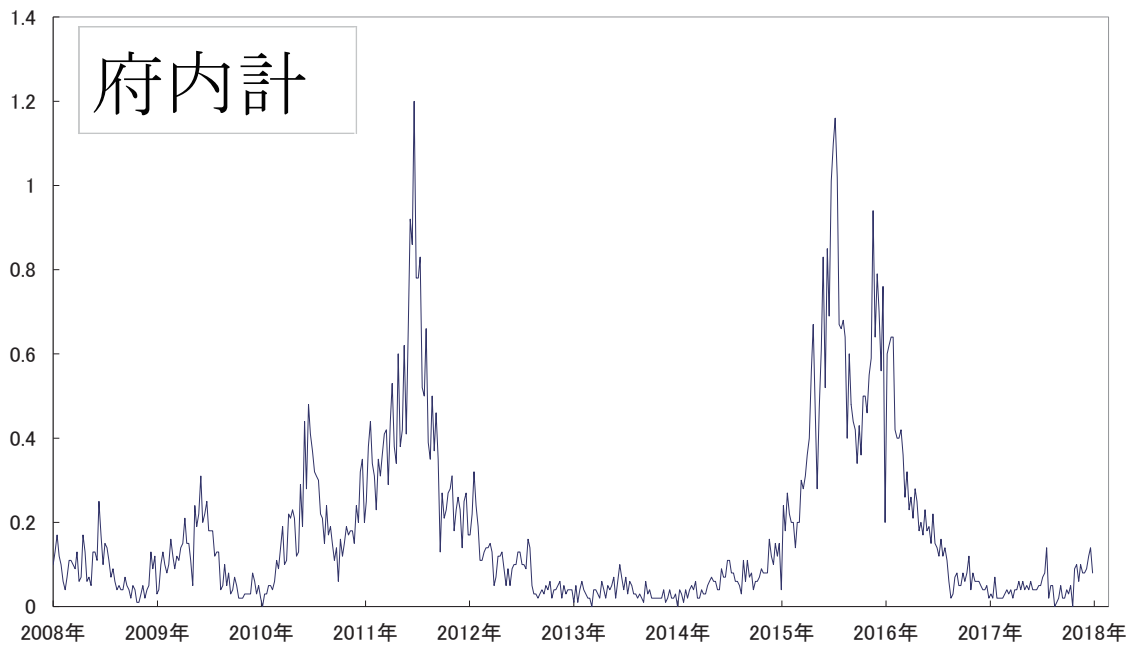
伝染性紅斑

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線(2008年第1週～2017年第52週)



●突発性発しん

2017（平成29）年と2016（平成28）年の患者報告数の比較では、2017年の報告数は前年比5.5%減の4,589例で、総報告数の3.4%を占めた。小児科定点あたりの報告数の年平均は0.44で順位は第8位であった。全国的にも8位（0.45）であった。

月別（週別）の定点あたりの報告数の推移では、定点あたりの報告数は、毎月の平均と標準偏差で見ると、5月（第18週～第22週） 0.56 ± 0.06 、6月（第23週～第26週） 0.53 ± 0.04 、7月（第27週～第30週） 0.56 ± 0.09 と高く、1月（第1週～第5週）が 0.21 ± 0.09 と低値であった。

全国的には4月（第14週～第17週）が 0.51 ± 0.04 、5月（第18週～第22週）が 0.54 ± 0.07 、6月（第23週～第26週）が 0.55 ± 0.01 、7月（第27週～第31週）が 0.53 ± 0.03 と高く1月（第1週～第5週）が 0.36 ± 0.05 、2月（第6週～第9週）が 0.37 ± 0.02 と低値であった。

年齢別患者発生数では1歳の2,373例（51.7%）が最も多く、0歳が1,659例（36.2%）、2歳414例（9.0%）であり、0歳と1歳で全体の87.9%、2歳を含めると96.9%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは④中河内（0.64）、③北河内（0.57）、⑤南河内（0.55）、⑦泉州（0.52）、⑧大阪市北部（0.50）の順であった。下位は⑥堺（0.24）、②三島（0.31）⑩大阪市東部（0.31）であり、上位のブロックとは約2倍の差がある。

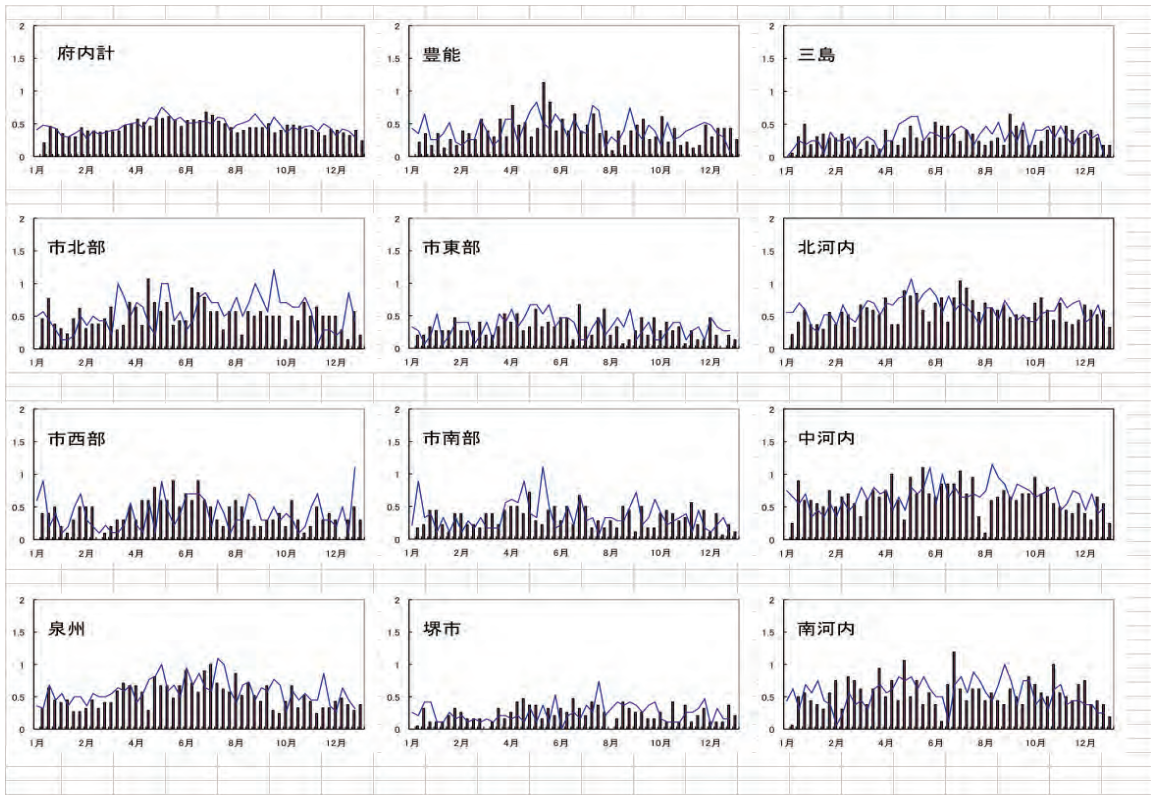
本疾患の特性としてブロック間の差が比較的生じにくいと考えられているが、上位と下位では約2倍の差があり、この傾向は過去のデータと同様である。

（文責：木下）

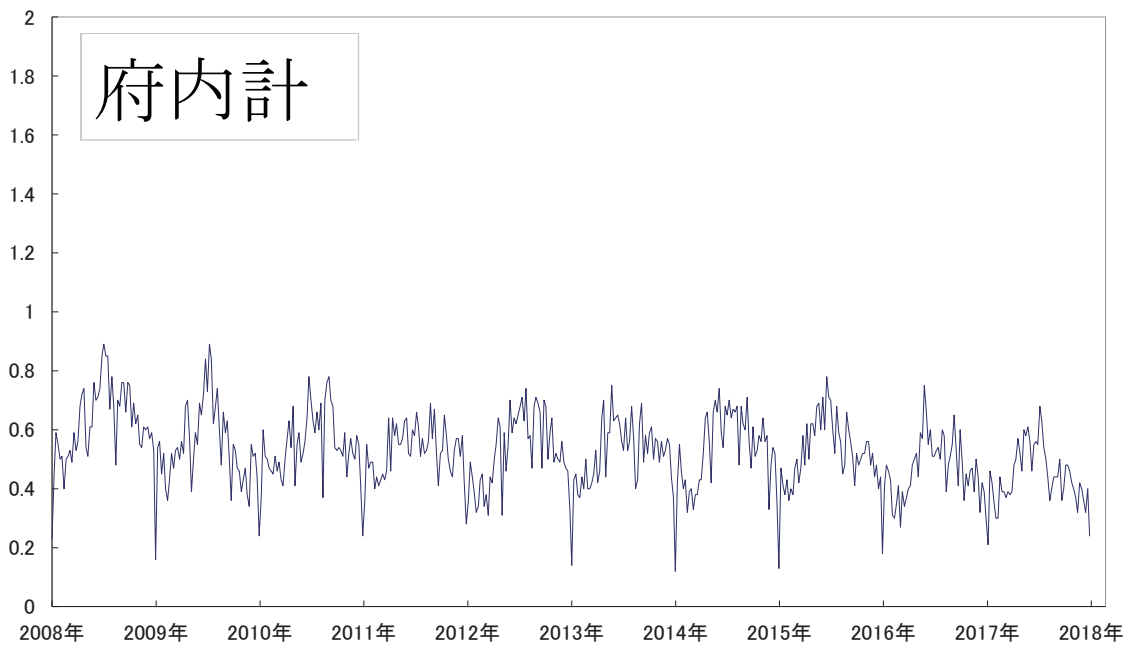
突発性発しん

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線(2008年第1週～2017年第52週)



●百日咳

2017（平成29）年の百日咳の報告数は108例（定点あたり報告数0.01）で、前年の166例（定点あたり報告数0.02）に比して34.9%減であった。全国集計の報告数は1,661例（定点あたり報告数0.01）で、前年の3,011例（定点あたり報告数0.02）から44.8%減となった。全国、大阪府ともに、小児科定点把握11疾患のうち最も報告数の少ない疾患であった。

全国の報告数は平成10年代半ばには1,000例台（定点あたり報告数0.01）であったが、2007（平成19）年より増加し、2008年には6,686例（定点あたり報告数0.04）となり、2012（平成24）年の4,087例（定点あたり報告数0.03）まで高い報告数が続いた。2013年は1,662例（定点あたり報告数0.01）と減少したが、2014年は2,066例（定点あたり報告数0.01）、2015年は2,675例（定点あたり報告数0.02）、2016年は3,011例（定点あたり報告数0.02）と緩やかな増加を示していたが、2017年（平成29年）1,661例（定点あたり報告数0.01）と再び減少した。

大阪府の報告数は2006年は141例であったが、2007年から2012年までは247例から364例のあいだを推移していた。2014年の報告数171例、2015年の報告数219例と増加したが、2016年166例で2017年108例と減少した。

週別の報告数で見ると、6月の報告数（週平均4.3例）が最も多く、7月（同3.6例）、11月（同2.8例）、10月（同2.4例）と続く。少ないのは2月（同0.0例）、3月（同1.0例）であった。

年齢別では、乳幼児に多く、6か月未満21.3%（23例）、6か月以上12か月未満8.3%（9例）、1歳児12.0%（13例）の報告があった。2歳未満の患者が報告数の44.4%（48例）を占めている。10歳から14歳で10.2%（11例）、20歳以上は21.3%（23例）であり、年長児や成人にも発症していた。

ブロック別で報告数の多かったのは④中河内15例、⑦泉州14例、⑤南河内13例、③北河内12例で、少なかったのは、⑪大阪市南部0例、②三島4例、⑩大阪市東部7例であった。

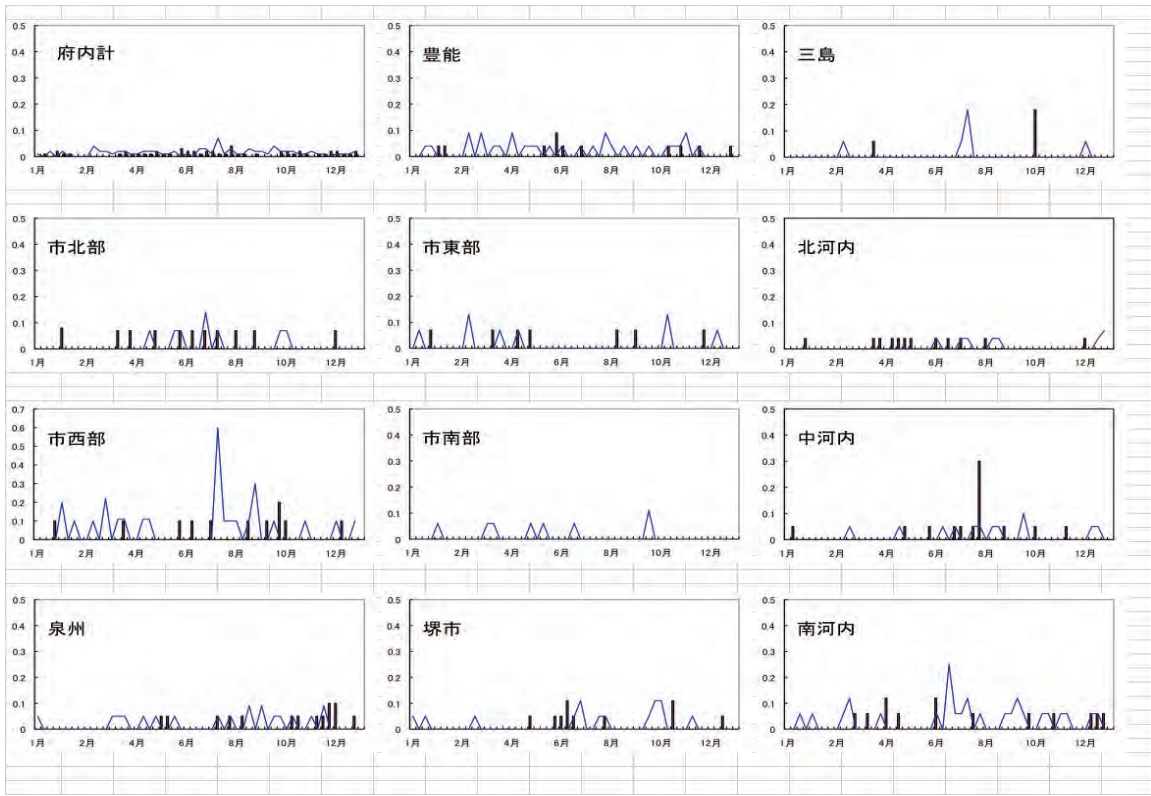
百日咳については、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 第14条第2項に基づき、五類感染症（定点把握疾患）として指定され医療機関から届け出られていたが、成人を含む百日咳患者の発生動向が、適時かつ正確に把握できず、対応に遅延が生じる可能性があるとして、五類感染症（全数把握疾患）に改正され2018年（平成30年）1月1日より施行された。

（文責：木下）

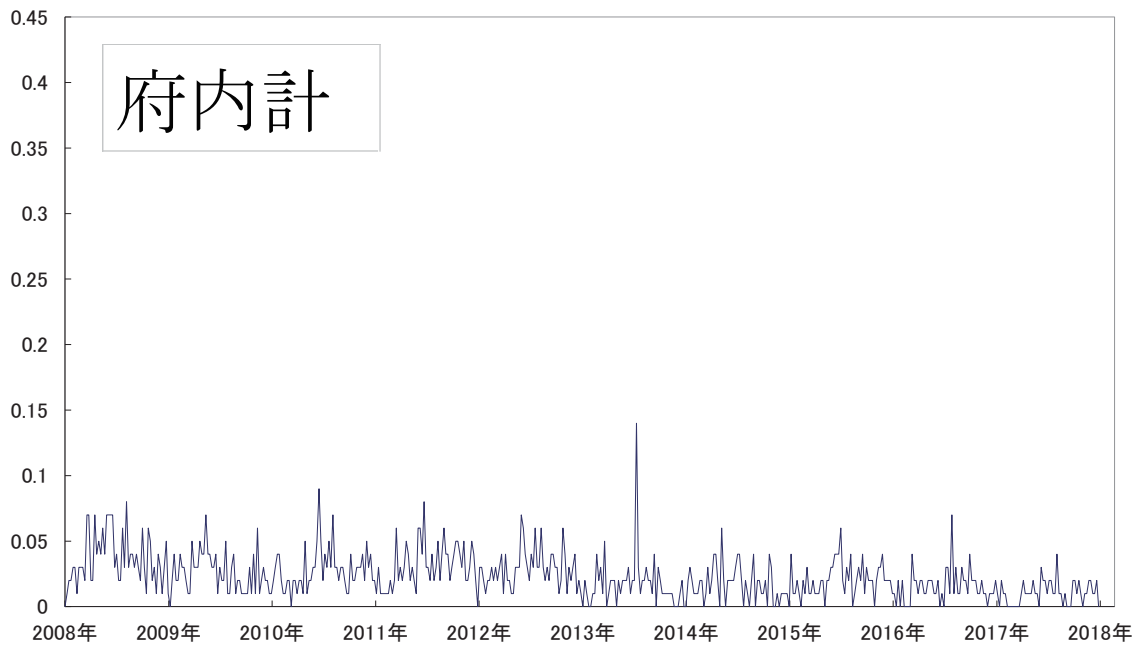
百日咳

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線（2008年第1週～2017年第52週）



●ヘルパンギーナ

2017（平成29）年と2016（平成28）年の患者報告数の比較では、2017（平成29）年の報告数は前年比42.0%減の4,967例で、総報告数の3.7%を占めた。小児科定点あたりの報告数の年平均は0.48で順位は昨年の第3位から6位になった。全国的には6位（0.53）であった。

週別（月別）の定点あたりの報告数の推移では、週別では第1週から第19週までは0.01～0.16で推移し、第20週（5月）に0.25となり以後増加し、第26週（6月）より1.13となり、定点で1.0を超え、第28週（2.40）（7月）にピークとなった。第33週（8月）に1.0を切り0.82となり減少が続いた。第23週（6月）に報告疾患の第5位になり、第28～30週（7月）に第3位となった。第38週（9月）の第5位を最後に上位5疾患から外れた。

全国的には0.23となった第21週（5月）から増加が始まり、第27週（7月）には1.51と1.0を超え、第28週（2.25）、第29週（2.25）と増加し、第30週（2.64）（7月）にピークに達した。その後減少し、第37週（9月）に0.97となり1.0を切り、減少が続いた。

年齢別患者発生数では、1歳1,515例（30.5%）、2歳934例（18.8%）、3歳607例（12.2%）、0歳568例（11.4%）、4歳418例（8.4%）の順で、0～4歳で全体の81.4%を占めた。

ブロック別患者発生数では、定点あたりのブロック別年平均報告数の上位5ブロックは、⑧大阪市北部（0.92）、③北河内（0.68）、⑨大阪市西部（0.66）、⑦泉州（0.52）、②三島（0.52）の順であった。ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位5ブロックは、⑧大阪市北部（第28週、5.36）、⑨大阪市西部（第29週、4.20）、②三島（第30週、3.35）、③北河内（第29週、3.22）、⑦泉州（第28週、3.05）の順であった。

病原体検出の陽性率は62.1%であった。コクサッキーA10型（11）、A2型（7）、A4型（1）、A6型（8）、エコー3型（1）、エンテロ71型（1）、ヒトパレコ型不明（1）、HSV1型（3）、ライノウイルス（8）、RS A型（2）、RS B型（1）が検出された。

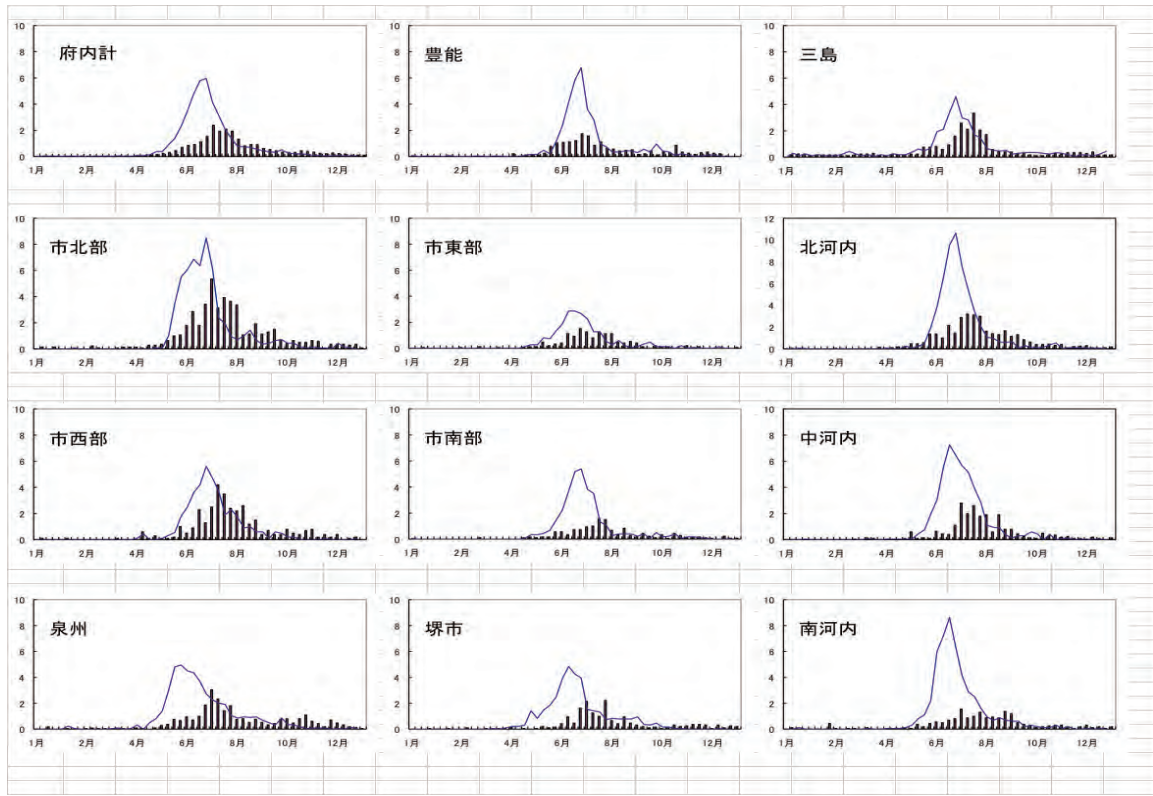
本疾患は6月末から8月にかけて流行の急峻な単峰性ピークを示す夏型感染症である。2017年の報告数は、2008年から2017年の10年間で最も少ない報告数であった。

（文責：木下）

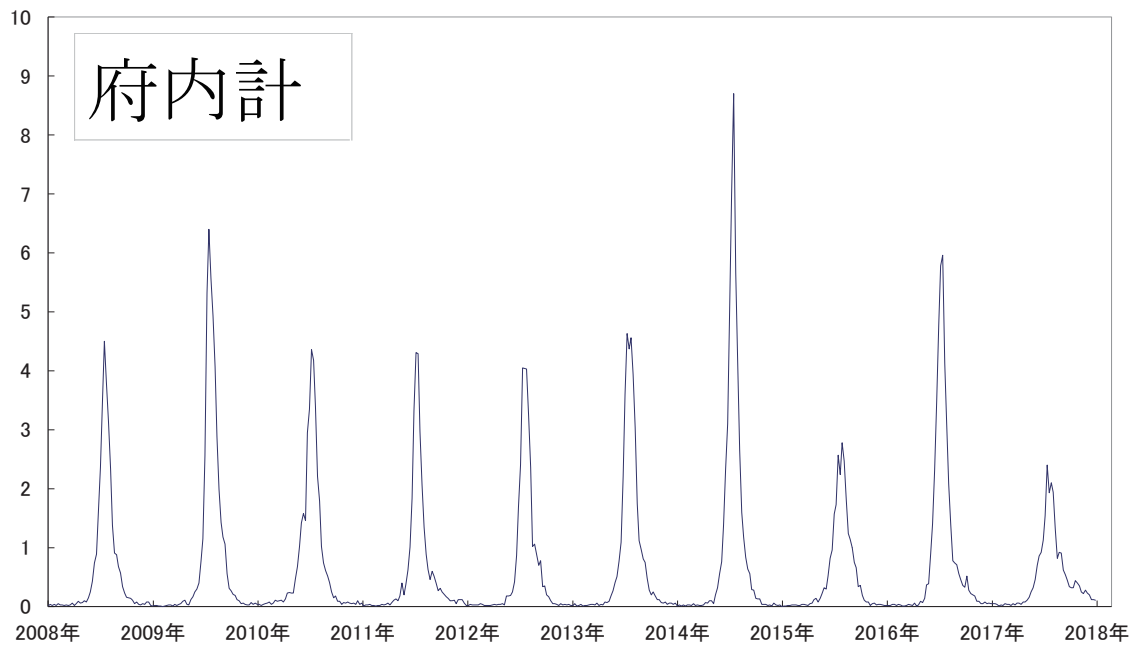
ヘルパンギーナ

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線(2008年第1週～2017年第52週)



●流行性耳下腺炎

2017(平成29)年の流行性耳下腺炎の患者報告数は4,972例で、前年比65.7%減、総報告数(小児科・眼科定点報告対象疾患)の3.7%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.48で、順位は第6位であった。過去10年間で最も大きな流行となった2016(平成28)年と比べて大幅に減少した。全国集計では77,884例の報告で、前年比51.0%減、総報告数(小児科・眼科定点報告対象疾患)の3.6%を占めた。定点あたりの報告数の年平均は0.47で、順位は第7位であった。

週別(月別)の定点あたりの報告数の推移では、第1週(1月)に年間最高値の1.25となり、その後漸減して、年間最低値は第52週(12月)の0.12であった。

全国集計では、第1週(1月)0.84に始まり、第2週(1月)に年間最高値の0.85となり、その後漸減して、年間最低値は第52週(12月)の0.23であった。

年齢別患者発生数は、5歳児の741例が最も多く、以下6歳児662例、4歳児632例、10～14歳児595例、7歳児518例、3歳児485例と続き、3歳児から6歳児で全体の50.7%を占めた。

ブロック別年間患者報告数の上位5ブロックは、③北河内(1,139例)、④中河内(715例)、⑦泉州(648例)、⑤南河内(590例)、②三島(382例)の順であった。

ブロック別定点あたりの年平均報告数の上位5ブロックは、③北河内(0.81)、⑤南河内(0.71)、④中河内(0.69)、⑦泉州(0.58)、⑧大阪市北部(0.49)の順であった。

ブロック別・週別定点あたりの報告数の上位6ブロックは、⑧大阪市北部(第49週、2.29)、⑧大阪市北部(第1週、2.23)、③北河内(第1週、2.22)、③北河内(第2週、2.19)、⑦泉州(第2週、2.05)、⑦泉州(第3週、2.05)の順であった。

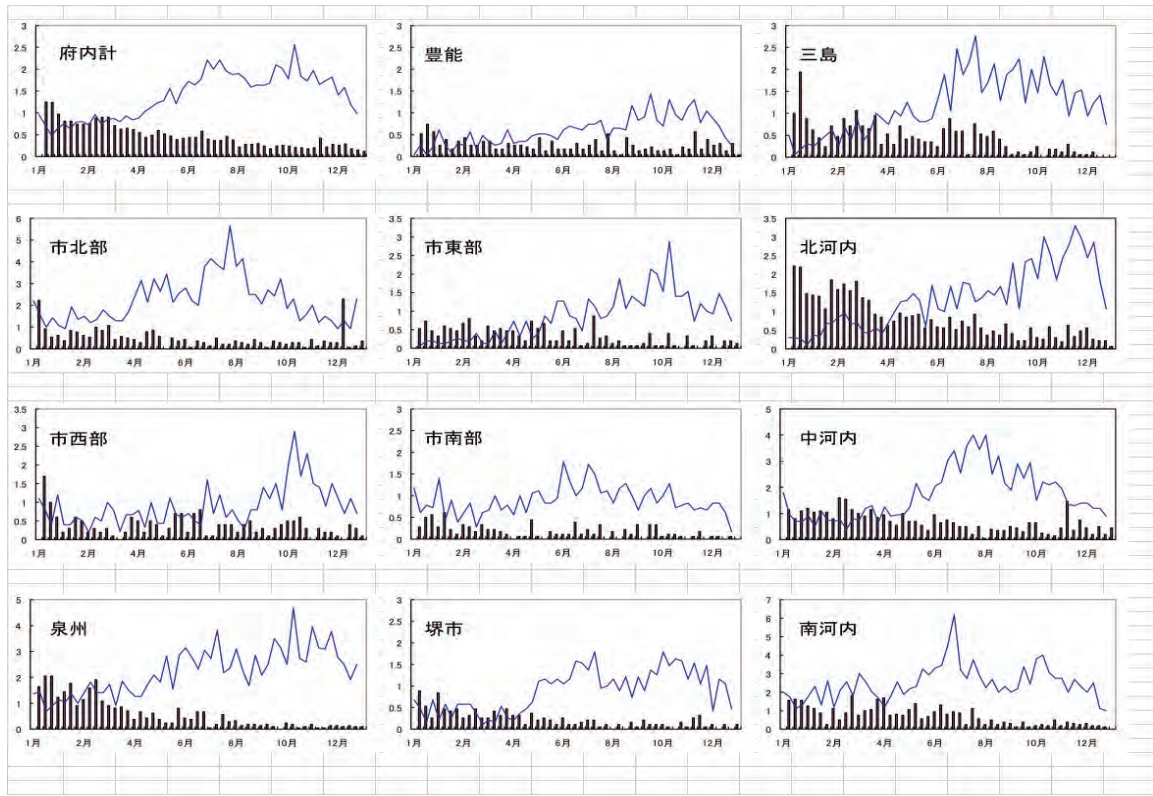
病原体定点医療機関からのウイルス検体の提出は28検体あり、うち12検体(42.9%)が陽性で、Mumps-genotypeGが10件とほとんどを占めていた。

(文責：富吉)

流行性耳下腺炎

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線（2008年第1週～2017年第52週）



3) 眼科定点把握疾患

●急性出血性結膜炎

2017（平成29）年の急性出血性結膜炎の報告数は、42例で前年より11例増加し、一定点眼科医療機関あたり0.02であった。

週別発生状況では、府内合計で定点あたり最高が、第27週の0.14（7例）で、第17週と第21週が0.06（3例）と続いた。報告の無い週が24週あった。

年間平均ブロック別で定点当たり高かったのは、⑦泉州と⑩大阪市南部の0.04で、以下⑥堺市と⑧大阪市北部が0.03と続いた。①豊能、④中河内、⑤南河内からの報告はなかった。

年齢別では、本疾患も流行性角結膜炎と同様に例年成人の発生が多く、20歳以上の報告数が33例と、全体の78.6%を占めた。

最近5年間の一眼科定点あたりの急性出血性結膜炎発生例件数

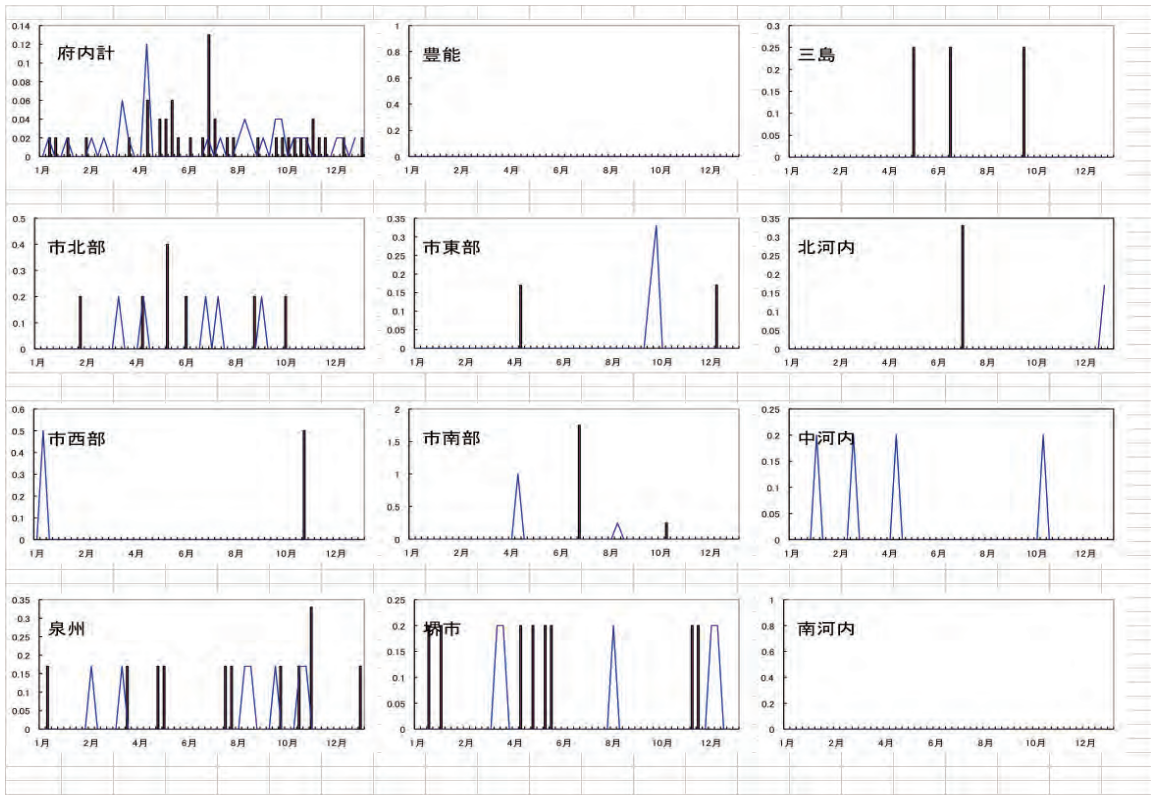
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
大阪	0.01	0.01	0.02	0.01	0.02
全国	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01

（文責 宮浦）

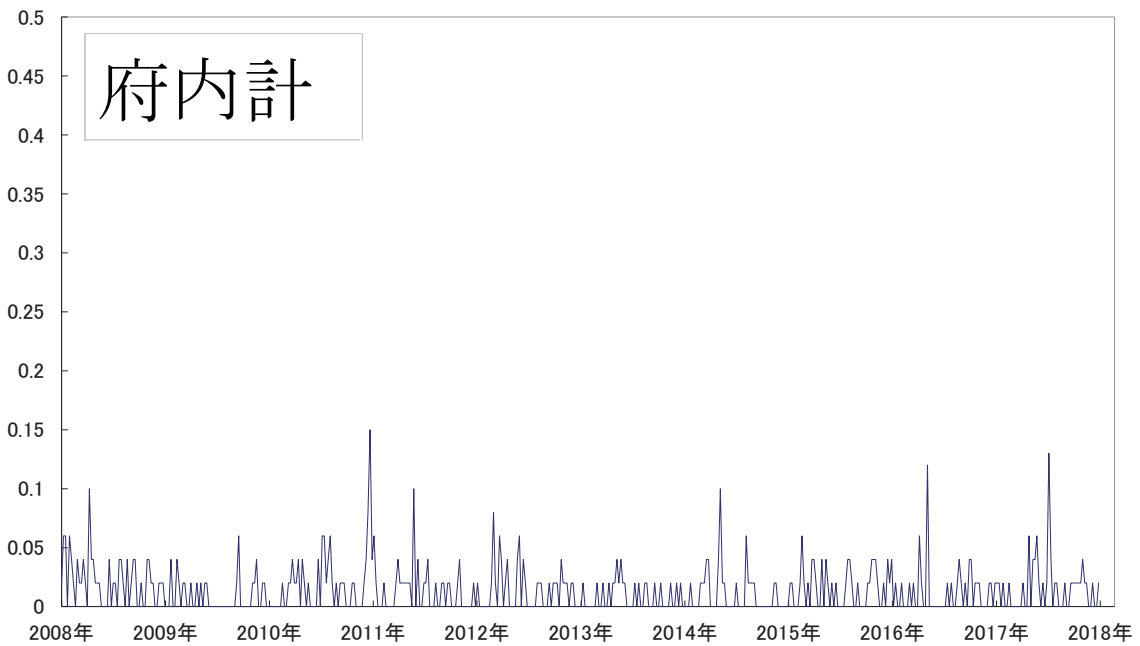
急性出血性結膜炎

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線（2008年第1週～2017年第52週）



●流行性角結膜炎

2017年（平成29年）の流行性角結膜炎の報告数は前年の23.8%減の1,108例で、一定点眼科医療機関あたり0.41であった。

週別発生状況では、府内合計で最も報告数の多かったのは、第28週の定点あたり0.81で、第34週の0.77がこれに続き、以下、第37週の0.73、第30週と第33週の0.67となり、前年のように府内で定点あたり1.0を超えた週はなかった。本疾患は夏型感染症とされており、発生件が多いとその傾向は顕著になる。本年は、第27週から第35週までの（7月～8月）9週に全体の27%の報告があった。

ブロック別・週別では、定点当たりの報告数が最も多かったのは⑪大阪市南部28週の3.75で、以下①豊能34週の3.20、⑥堺市30週の2.60、⑨大阪市西部27週の2.5と続いた。

年間平均ブロック別では、①豊能0.72、⑪大阪市南部0.63、②三島0.58の順であった。最低は、⑦泉州の0.22であった。

年齢別では、例年どおり成人（20才以上）の発生件数が多く、本年も749例と全体の67.6%を占めた。

本年も、大阪府内の定点当たりの報告数は、全国集計よりも低かった。

最近5年間の一眼科定点あたり流行性角結膜炎発生例数

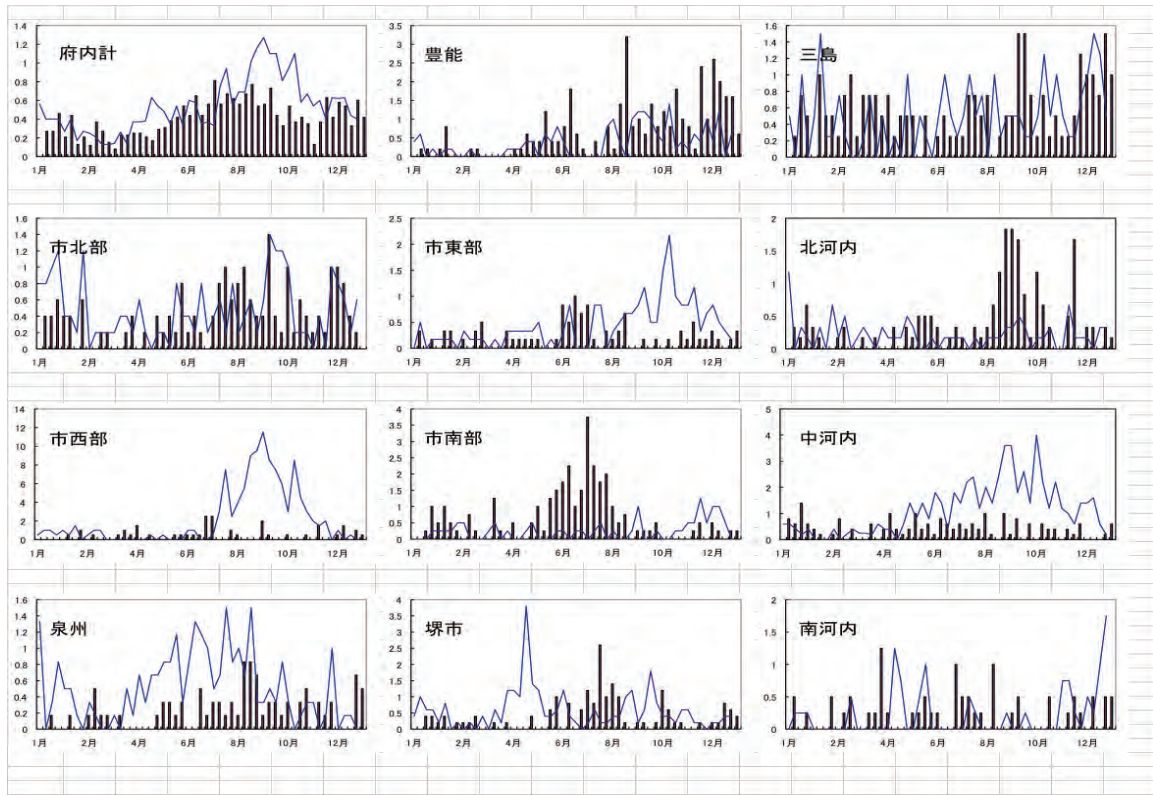
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
大阪府	0.36	0.28	0.38	0.54	0.41
全国	0.58	0.57	0.69	0.73	0.74

（文責 宮浦）

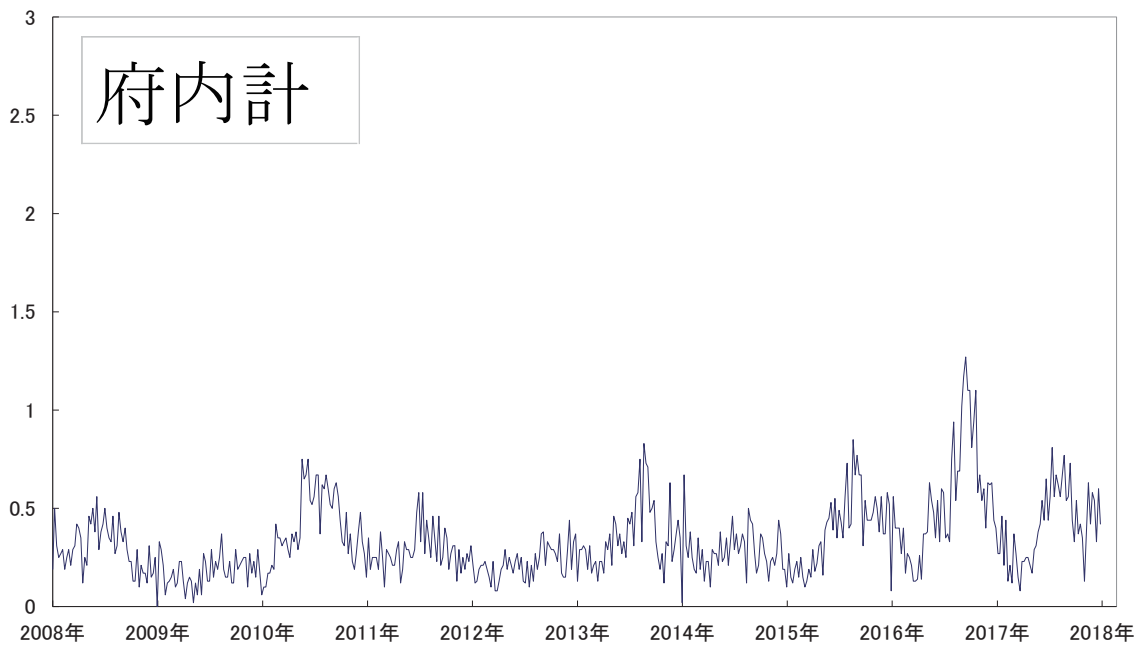
流行性角結膜炎

線（2016年第1週～第52週）

棒（2017年第1週～第52週）



線（2008年第1週～2017年第52週）



4) 基幹定点報告（週報）対象疾患

基幹病院定点報告（週報）対象疾患は、5類感染症の中の細菌性髄膜炎[2013（平成25）年4月から髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌による、髄膜炎を含む侵襲性感染症が、2013（平成26）年9月から播種性クリプトコッカス症が全数報告疾患となったので、本項の対象疾患から除く]、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎（オウム病を除く）、及び、2013（平成25）年10月から報告対象となった感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）の5疾患である。

表には2016（平成28）、2017（平成29）年の大阪府・市の各基幹定点からの報告数を示した。基幹病院数は17ある。1999（平成11年）の事業開始時から病院間で報告症例数の差が大きく、ブロック別の検討はしなかった。

ブロック (年)	細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	
	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年	2016年	2017年
(1)豊能	1	1	15	5	41	4	1		36	24
(2)三島	5	2	6	4	222	34			57	37
(3)北河内	1		1	1	100	30		1	20	4
(4)中河内	2	1			73	33			22	6
(5)南河内	3	4	15	5	40	21			74	65
(6)堺	4	5	19	27	225	58	3	2	86	57
(7)泉州	11	1			169	77			34	6
大阪市	2	3	3	2	231	38			77	38
合計	29	18	59	44	1101	295	4	3	406	237
定点あたり大阪	1.7	1.1	3.5	2.8	64.8	18.4	0.2	0.2	23.9	14.8
定点あたり全国	1.03	1.10	2.89	2.00	41.34	17.53	0.74	0.56	11.04	10.43
定点数	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17

以下に、各疾患について述べる。

●細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスを除く）

18例が報告され、定点あたり1.1で、2016（平成28）年は29例、定点あたり1.7であり、前年比38%減であった。年齢は0歳1例、1～4歳3例、5～9歳児が6例、10歳台1例、40歳台1例、50歳台1例、60歳台1例、70歳台1例、80歳台2例で、60歳以上が40%であった。原因菌はB群連鎖球菌1例（75歳）、肺炎球菌1例（3歳、侵襲性肺炎球菌感染症に該当）、7歳～8歳の肺炎マイコプラズマ2例、他の症例では細菌は検出されず、便ウイルス抗原が陽性とされるものがあった。ウイルスを含めた髄液の核酸検出による原因微生物の同定検査の普及を期待したい。髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌、クリプトコッカスによる髄膜炎は5類全数報告を参照されたい。肺炎マイコプラズマを細菌性髄膜炎の原因とすべきか、

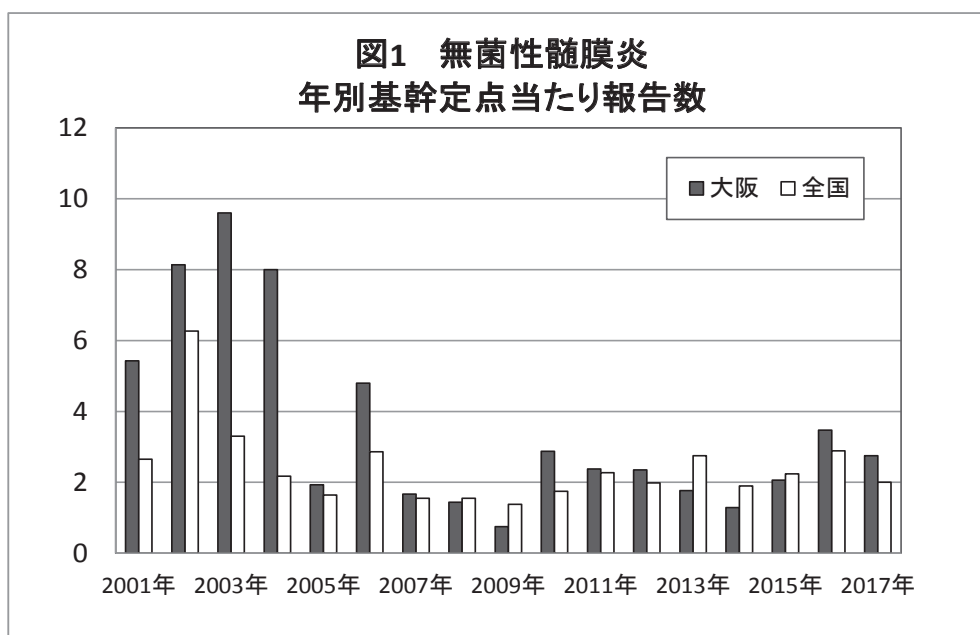
明確な規定が望まれる。

全国集計では2017（平成29）年は523例の報告があり、定点あたり1.10、2016（平成28）年は定点あたり1.03で2017（平成29）年は前年比6%増であった。原因菌にはB群レンサ球菌6.3%、肺炎球菌4.0%、黄色ブドウ球菌3.0%、リステリア菌0.9%などが多いが、肺炎マイコプラズマ9.1%も多く、また、ウイルスが記載されていたり、原因菌不明の症例が合計60%を占めていた。

●無菌性髄膜炎

44例が報告され、定点当たり2.8で2016（平成28）年は59例、定点あたり3.5で、前年比31%減であった。年齢は0ヵ月2例、1～4歳7例、5～9歳7例、10～14歳台7例、15～19歳3例、20歳台4例、30歳台5例、40歳台3例、50歳以上6例であった。10歳未満の割合が全体の36%で、2016（平成28）年は49%であった。原因微生物としてはムンプス4例、肺炎マイコプラズマ1例、水痘帯状疱疹ウイルス2例、陰性と記載なし37例であった。一方、本報告書のウイルス検査結果では2017（平成29）年の無菌性髄膜炎患者からエコーウイルス(E)626例、エンテロウイルス(EV)718例、コクサッキーウイルス(C)B28例、ムンプス遺伝子型G5例、などが検出されている。図1に大阪府と全国の年間の定点あたりの報告数の推移を示す。大阪府では2007(平成19)年以後無菌性髄膜炎の大きな流行がない。

全国集計では2017（平成29）年は956例、定点あたり2.0、2016（平成28）年は定点あたり2.9であり、2017（平成29）年は前年比31%減であった。国立感染症研究所のデータを参照すると原因ウイルスではE655例、ムンプス45例、CB238例、EV7130例などが多かった。



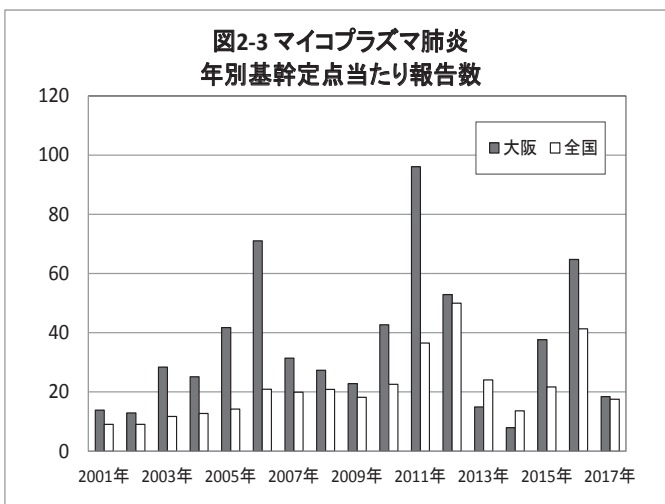
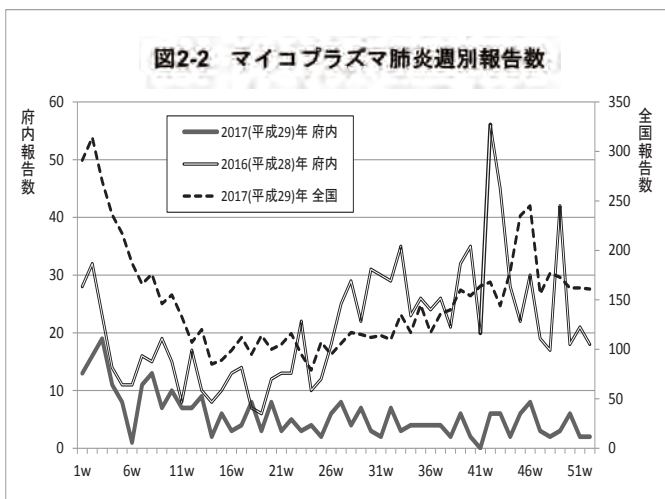
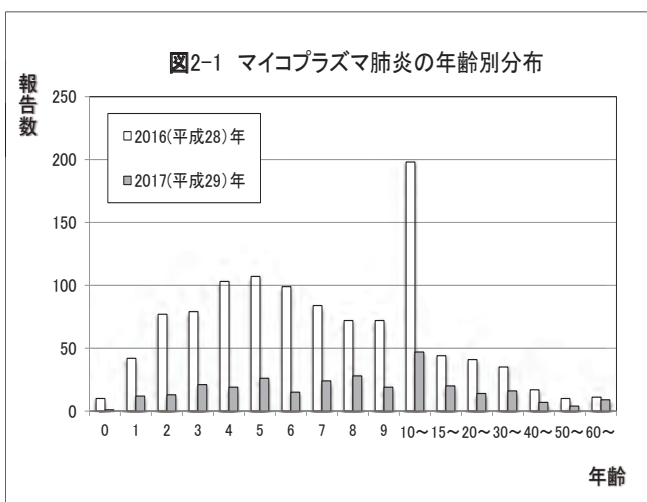
●マイコプラズマ肺炎

295 例の報告があり、定点あたり 18.4 で、2016（平成 28）年の 73.2% 減であった。年齢分布は図 2-1 に示すように 3 歳～ 9 歳に多く、8 歳がピークであった。2016（平成 28）年、2017（平成 29）年の週別報告数と 2017（平成 29）年の全国の週別報告数を図 2-2 に示した。2017（平成 29）年 10 週以後は 10 例未満となり、流行年にみられる夏以降の増加がみられなかった。全国では夏以降の増加がみられている。

全国集計では 2017（平成 29）年は定点あたり 17.5 で、2016（平成 28）年の 41.3 に比し、57.6% 減であった。図 2-3 に大阪府と全国のマイコプラズマ肺炎の年間の定点あたり報告数の推移を示す。大阪では 2006（平成 18）年、2011（平成 23）年、2016（平成 28）年をピークとする流行があり、2011（平成 23）年を含む流行の方が 2016（平成 28）年を含む流行より、症例数が多かった。全国では 2012（平成 24）年、2016（平成 28）年をピークとする流行があったことがわかる。1990 年代はじめまで日本では 4 年毎の流行周期がみられたが、諸外国では 4～5 年の流行周期が持続していると報告されている。

診断方法は核酸検出（PCR・LAMP 等）が 44.6%、抗原検出が 31.0%、血清抗体価が 23.1% で、2016（平成 28）年

とほぼ同様の傾向であった。抗原検出の低い感度、血清抗体価の上昇までの日数、上昇した高抗体価の長期間の持続に、診断上の注意が必要である。急性期の検査として、核酸検出は感度、特異性が最も優れている、と報告されている。



●クラミジア肺炎（オウム病を除く）

クラミジア・トラコマチス (*Chlamydia trachomatis*) による新生児期の肺炎と肺炎クラミジア (*Chlamydophila(Chlamydia) pneumoniae*) による肺炎が含まれる。オウム病 (*Chlamydophila (Chlamydia) psittaci*) は4種感染症である。

2017（平成29）年は3例の報告で、定点あたり0.2、2016（平成28）年は4例の報告であった。年齢分布では2歳、7歳、12歳であった。週別では第19週、28週、36週に報告された。診断法は核酸検出が1例、血清抗体が1例、分離培養が1例で、3例とも肺炎クラミジアが原因と報告された。全国集計では265例の報告で、定点あたり0.6で、2016（平成28）年の25%減で、原因菌は肺炎クラミジアが多数を占め、クラミジア・トラコマチスは5例(2%)であった。都道府県別には静岡県の定点当たり5.1/年が最も高く、38%の都道府県では報告がなかった。診断方法として利用できる血清診断法の特異性が低いことが問題となっていたが、新規の肺炎クラミジア IgM 抗体検査（エルナスプレート）や遺伝子検査で診断の精度があがると期待される。ドイツでは軽症オウム病肺炎を含めて、クラミジア肺炎は成人市中肺炎の3.9%を占めると報告された (Emerg Infect Dis. 2015 21: 426)。

●感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る、以下ロタウイルス胃腸炎）

237例が報告され、定点あたり14.8で、2016（平成28）年に比し41.6%減であった。週別報告数では第7週から10例以上となり、第16週の21例がピークで、第23週5例未満となった。年齢は1歳が22.3%と最も多く、2歳14.8%で、0～4歳で66.2%を占めた。図3にはロタウイルス胃腸炎報告数の週別推移を示した。

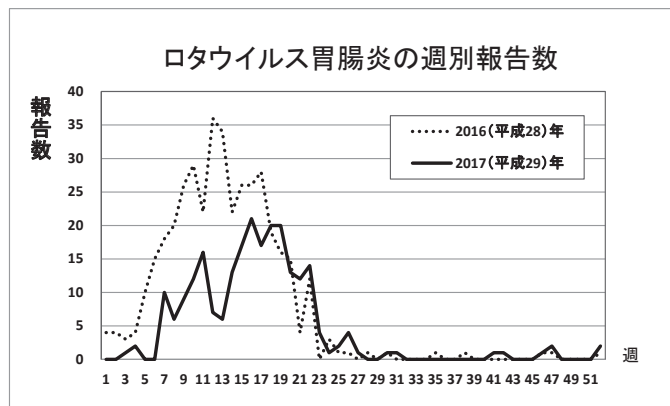


図3にはロタウイルス胃腸炎報告数の週別推移を示した。2011（平成23）年～2012（平成24）年に認可された、二つの弱毒生ロタウイルスワクチンの初回の接種は生後6週～15週未満が推奨され、対象児の接種率は60%前後であろう。

低い接種率でも集団免疫効果も加わって、大きく入院数が減少しているといわれる。また、ワクチン被接種児が本症で入院することは少ない。本調査はワクチン任意接種の開始後の2012（平成25）年途中から始まり、2013（平成26）年以後の報告数は定点あたり13.5、17.2、23.9と毎年増加していたが、4年目の本年は減少した。当然ながら、ロタウイルスワクチンの定期接種化が望まれる。

全国では定点あたり10.4で2016（平成28）年の11.0に比し2.5%減であった。

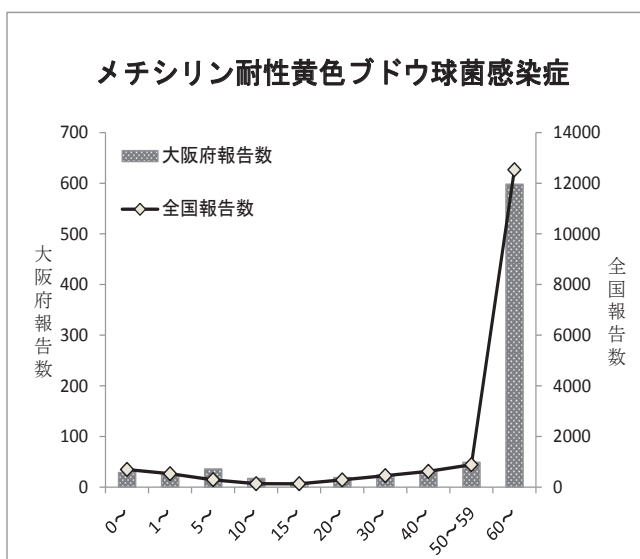
（文責：塩見）

5) 基幹定点報告（月報）対象感染症

基幹定点報告（月報）対象感染症は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の3疾患である。基幹定点報告（月報）対象感染症を報告する大阪府内の基幹病院定点数は18であった。これら薬剤耐性菌は抗菌薬の不適切な使用を背景として、薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっている。日本を含め、世界各国は協調して薬剤耐性菌対策を推進することが求められている。

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

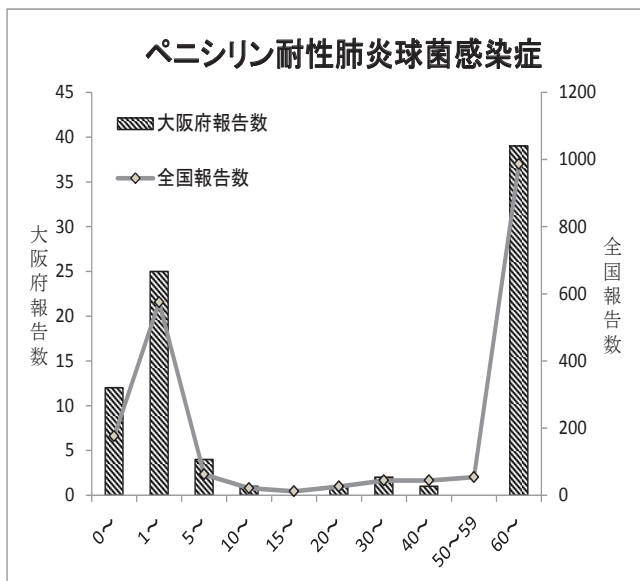
⑩大阪市東部を除く10ブロックから前年比17.2%増の838例の報告があり、定点あたり報告数は46.6であった。年齢別構成は0歳児29例、1～4歳児26例、5～9歳児36例、10～14歳17例、15～19歳9例、20～29歳19例、30～39歳24例、40～49歳31例、50～59歳49例、60歳以上598例であり、60歳以上が71.4%を占め、ほぼ前年同様の分布であった。



全国情報（NESID年報 平成30年2月17日現在）では前年比1.3%増の16,550例の報告があり、定点あたり報告数は34.6と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると60歳以上が12,533例と75.7%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の5.1%であった。

●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

⑥堺市35例、①豊能22例、⑤南河内9例、⑦泉州9例、④中河内6例、②三島3例、⑨大阪市西部1例の7ブロックから、前年比1.2%減の85例の報告があり、定点あたり報告数は4.72であった。年齢別構成では0歳児12例、1～4歳児25例、



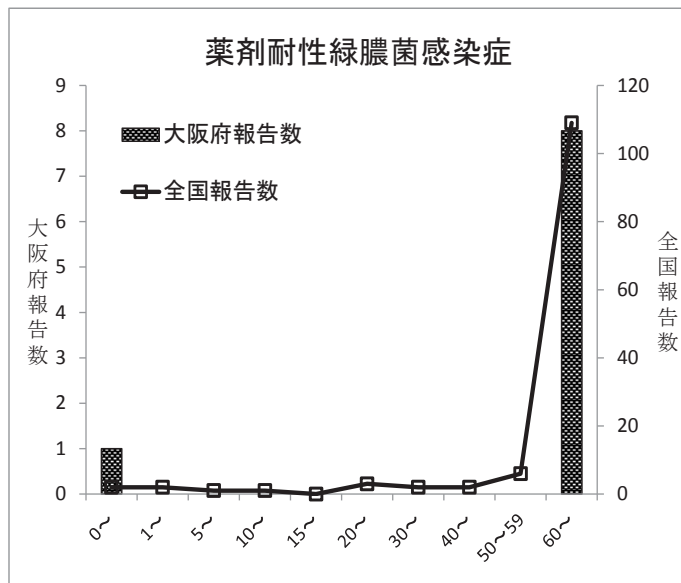
5～9歳児4例、10～14歳1例、15～19歳0例、20～29歳1例、30～39歳2例、40～49歳1例、50～59歳0例、60歳以上39例であり、0-4歳児と60歳以上が多く、それぞれ43.5%、45.9%であった。前年同様に0～4歳児と60歳以上の年齢群での報告数が多かった。

全国情報（NESID年報）では前年比0.1%増の2,001例の報告があり、定点当たり報告数は4.2と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると0-4歳児と60歳以上が多く、それぞれ37.5%、49.3%と大阪府と同様であった。大阪府内の報告数は、全国の4.2%であった。

●薬剤耐性緑膿菌感染症

⑤南河内3例、①豊能2例、②三島2例、③北河内1例、⑥堺市1例の5ブロックから9例報告があった。前年度2例から9例に増加した。定点当たり報告数は0.5であった。年齢別構成は、0歳が1例、60歳以上が8例であった。

全国情報（NESID年報）では前年比18.5%減の128例の報告があり、定点当たり報告数は0.3と大阪府より少なかった。全国の年齢別構成をみると60歳以上が109例と85.2%を占めた。大阪府内の報告数は、全国の7.0%であった。



(文責：木下)

2018 (平成30) 年 7月大阪府医師会より、府医ニュースとして掲載した。

(5) 2018年(平成30年)7月4日(毎週水曜日発行、但し第2週を除く) 大阪府医ニュース (昭和25年9月7日第三種郵便物認可)(第2861号)

2017(平成29)年 感染症の動向

大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市・豊中市・枚方市・八尾市
感染症発生動向調査委員会

感染症発生動向調査事業は医師会、大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、高槻市、豊中市、枚方市、八尾市の密接な連携のもとに実施されている。大阪府感染症情報解析委員会は毎週水曜日に開催され、定点の先生方からの毎週の患者情報と、大阪健康安全基盤研究所(森ノ宮センター・天王寺センター)、堺市衛生研究所の病原体検出情報とを併せて解析・評価し、還元している。平成29年の感染症発生動向調査結果の概要を報告する。

はじめに

29年、大阪府の小児科定点は200、インフルエンザ定点は307、眼科定点は52、基幹病院定点は17であり、前年とほぼ同様である。

1年間の患者報告数は134,802人で前年より9.2%減少した。

疾患別では感染性胃腸炎が1位であり、次いで手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱の順である。

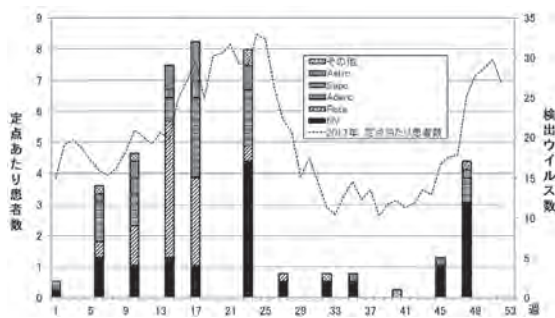
第6位以下は、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、突発性発疹、水痘、流行性角結膜炎、伝染性紅斑、百日咳、急性出血性結膜炎と続く。

上位5疾患はそれぞれ全体の39.8%、16.6%、16.0%、8.7%、3.9%で、5疾患の合計が全体の85%を占めた。

【感染性胃腸炎】

第1位の感染性胃腸炎の患者報告数は53,649人で、前年に比し28%減少し、定点あたり報告数は、5.16であった。年齢別では1歳で8,493人(15.8%)と最も多く、2歳が6,409人(11.9%)、3歳が5,581人(10.4%)であり、3歳までで全体の38.2%を占めた。季節別では春期(3月～5月)に31.5%、夏期(6月～8月)に24.9%、秋期(9月～11月)に17.9%、冬期(12月～2月)に25.7%と春期と冬期に多かった。週別定点あたり報告数では第24週(8.48)、第25週(8.31)がピークであった。検出されたウイルスは、ノロウイルスが58株、ロタウイルスが42株、アデノウイルスが32株、アストロウイルスが14株、サボウイルスが8株、エコーウイルスが4株、ヒトパレコウイルスが1株、ヒトメタニューモウイルスが1株であった(図1)。基幹定点医療機関からの届け出でロタウイルス感染性胃腸炎の報告数は237人であった。

(図1) 2017年感染性胃腸炎定点あたり患者数と検出ウイルス数(大阪府内計)



【手足口病】

第2位の手足口病は22,324人で、前年に比し7.3倍に増加し、定点あたり2.15であった。年齢別では1歳が7,400人(33.1%)で最も多く、2歳が4,567人(20.5%)、3歳が2,803人(12.6%)、6カ月から12カ月が238人(10.0%)と続き、全体の87.3%を占めた。季節別では、春期に12.4%、夏期に75.1%、秋期に8.6%、冬期に3.3%であり夏期に多かった。週別定点あたり報告数では第28週(14.38)が最多であり、次いで第29週(11.95)、第27週(10.95)であった。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第3位のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は21,598人で、前年に比し0.4%減少し、定点あたり2.08であった。

年齢別では5歳が3,027人(14.0%)で最も多く、4歳が2,893人(13.4%)、6歳が2,373人(11.0%)、3歳が2,363人(10.9%)と続き、全体の49.3%を占めた。季節別では、春期に29.3%、夏期に26.5%、秋期に21.8%、冬期に2.5%であり春期に多かった。週別定点あたり報告数では第24週(3.72)が最多であり、次いで第25週(3.55)、第23週(3.52)であった。

【RSウイルス感染症】

第4位のRSウイルス感染症は11,675人で、前年に比し36.7%増加し、定点あたり1.12であった。年齢別では1歳が4,064人(34.8%)で最も多く、6カ月～12カ月未満が2,492人(21.3%)、6カ月未満が1,841人(15.8%)、2歳が1,833人(15.7%)であり、全体の97.6%を占めた。季節別では、春期に7.9%、夏期に29.6%、秋期に44.1%、冬期に18.4%であり秋期に多かった。週別定点あたり報告数では第35週(3.91)が最多であり、次いで第37週(3.76)、第36週(3.65)であった。

【咽頭結膜熱】

第5位の咽頭結膜熱は5,210人で、前年に比し0.4%減少し、定点あたり0.5であった。年齢別では1歳が1,371人(26.3%)で最も多く、2歳が864人(16.6%)、3歳が780人(15.0%)、4歳が686人(13.2%)であり、全体の71.1%を占めた。季節別では、春期に29.3%、夏期に3.6%、秋期

に18.6%、冬期に19.1%であり夏期に多かった。週別定点あたり報告数では第21週(1.12)が最多であり、次いで第24週(1.02)であり、第21週から第24週がピークであった。

【インフルエンザ】

インフルエンザの患者報告数は78,654人で前年に比し18.7%減少し、定点あたり4.92であった。年齢別では20歳以上の年代が18,299人(23.3%)と最も多く、次いで10～14歳が13,884人(17.7%)、5歳5,450人(6.9%)であった。28/29シーズンは週別定点あたり報告数が30を超えたのは第4週(39.81)と第5週(39.45)であった。第19週に1以下(0.66)になり終息した。29/30シーズンは第48週に1を超えた(1.54)(図2)。28/29シーズン検出されたインフルエンザウイルスはAH3亜型が351株、AH1pdm09が24株、B型が29株、AH型別不能が3株であった。AH3亜型は1月、AH1pdm09は3月にそれぞれピークがあった。

29/30シーズンの12月までに検出されたインフルエンザウイルスはAH3亜型が15株、AH1pdm09が32株、B型が29株であった。

【届け出基準の変更】

風しん：診断後は「直ちに」届け出る。「ウイルス遺伝子検査」を原則として前例に実施する。1例でも発生した場合、「積極的疫学的調査」を実施する。

百日咳：これまでの小児科定点把握疾患から「全数把握疾患」に位置付けられることとなり、医師が診断後「7日以内」に届け出る。

おわりに

昭和57(1982)年に感染症発生動向調査事業を開始して35年が経過しました。この間、関係各位のご理解・支援により、貴重な調査結果が集積されています。これらの調査結果の解析や発信が医療や感染症対策に資し、府民の健康・安心・安全に寄与しています。平成30年も、ご理解・支援のほどお願いいたします。

報告：東野博彦(河内医師会)

(図2) 2016/17、2017/18シーズンインフルエンザ定点あたり患者数と検出ウイルス数(大阪府内計)

